

令和元年MM教育実施状況アンケート調査 結果

エコモ財団では、平成 28 年度より自治体における交通担当部署を対象としたアンケート調査を実施し、各地におけるモビリティ・マネジメント教育（以下、MM教育）の実態調査を実施している。また、平成 30 年度からは教育委員会向けにもアンケート調査を実施している。

令和元年度も同様に自治体及び教育委員会向けのアンケート調査を実施した。

1. 自治体向けアンケート

1.1 調査の目的

全国の自治体におけるMM教育の継続的な実施状況及びMM教育を普及していく上での課題把握を目的とする。

1.2 調査の設計

- 調査対象 都道府県及び市（東京 23 区含む）
- 調査票本数 860 件（47 都道府県、790 市、東京 23 区）
- 調査方法 配布：郵送配布
回収：選択方式（インターネット、FAX、メール）

※メール回答の場合は、MM 学習ポータルサイトからダウンロードできる電子データの調査票を用いる。より回答が簡易にできるよう、配布する電子データの調査票はエクセル形式とした。

- 調査時期 令和元年 9 月 13 日（金）～令和元年 10 月 11 日（金）

1.3 調査票の配布・回収の状況

- 配布件数 860 件
- 有効回収件数（率） 428 件（49.8%）

表 配布件数・有効回収件数

	配布件数 (件)	有効回答	
		回収数 (件)	構成比 (%)
インターネット	860	254	59.3
FAX		87	20.3
メール		87	20.3
その他		0	0
総計	860	428	100.0

＜参考＞過年度調査の回収方法と回収率 ※調査方法、配布方法は今年度調査を同様

	平成 30 年度調査	平成 29 年度調査	平成 28 年度調査
インターネット	○	○	○
郵送	—	○	○
FAX	○	○	○
メール	○	○	—
その他	○	—	—
有効回収件数	432 件 (回収率 50.2%)	500 件 (回収率 58.1%)	458 件 (回収率 53.3%)

1.4 調査項目及び調査票の設計

(1) 調査対象

アンケート調査票は、昨年度と同様、都道府県と市でA、Bの2種類に区別し、さらに、回答のしやすさを考慮して、昨年度調査でのMM教育の取組みの有無により、質問の内容を下記の「内容1」、「内容2」にそれぞれ区分した。そのため、全部で4種類の調査票となっている。

内容1：H30年度調査でMM教育の取組みが確認された自治体

内容2：H30年度調査でMM教育の取組みが確認されなかった自治体

(回答があったが未実施、未回答)

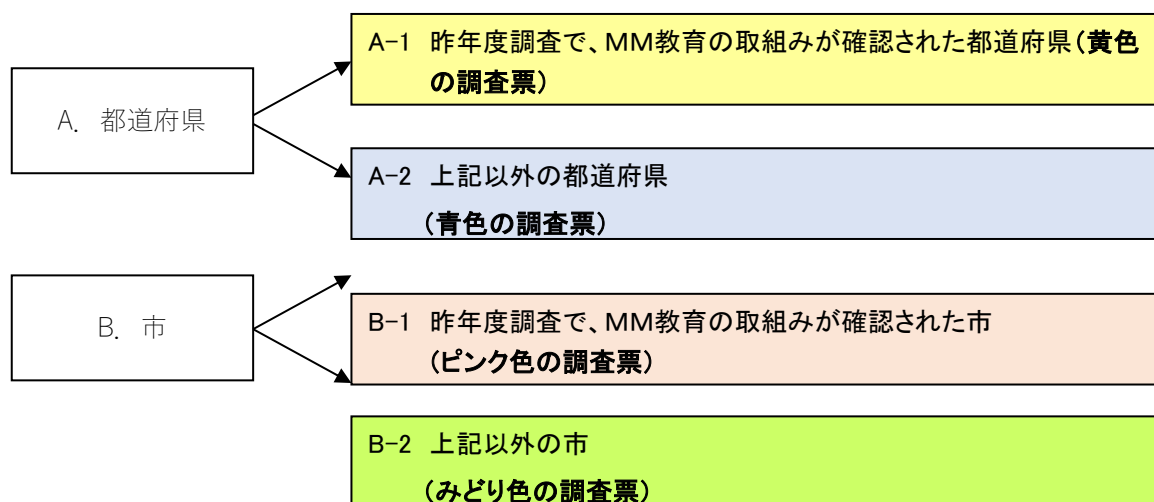


図 アンケートの構成

平成 30 年度調査の結果から、各調査票は以下の通り配布した。

表 各アンケート調査票の配布件数

平成 30 年度アンケート 問 1 (※) に対する選択肢	都道府県		市区	
	H30 回答数	調査票	H30 回答数	調査票
1. 実施した	11 件	A1 (11 枚)	167 件	B1 (167 枚)
2. 過去に実施したことはあるが、 昨年度は実施しなかった	1 件	A2 (36 枚)	42 件	B2 (646 枚)
3. これまで実施したことがない	5 件		206 件	
不明・無回答	0 件		0 件	
未回収	30 件		398 件	
合計	47 件	47 枚	813 件	813 枚

(※) 問 1：貴自治体では昨年度（平成 29 年度）に、「MM教育」を実施しましたか？

(2) 調査項目

アンケート調査項目は、昨年度と同様の内容に加えて、エコモ財団のHPで提供している教材の認知度、活動の有無、活用した際の感想等を把握できる設問を追加した（赤枠）。

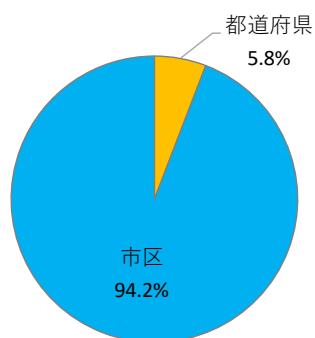
表 アンケート調査項目※赤枠が今年度追加項目

調査項目		内容 1 昨年度調査で 実施を確認	内容 2 その他
①MM教育の実施 状況	昨年度実施の有無	○	○
	継続的に実施できる理由	○	×
	実施意向の有無	×	○
	実施しなかった理由	○	○
	実施方法(1)(2)(3)	○	○
	実施内容	○	○
②今後の取組	今後の取組予定	○	○
	取組の課題や障壁	○	○
	取組む上での問題点、支援してほしい事柄	○	○
③エコモ財団の教 材の活用	教材の認知度	○	○
	活用した教材、事例	○	○
	活用した感想	○	○
③属性	連絡先	○	○

1.5 調査結果

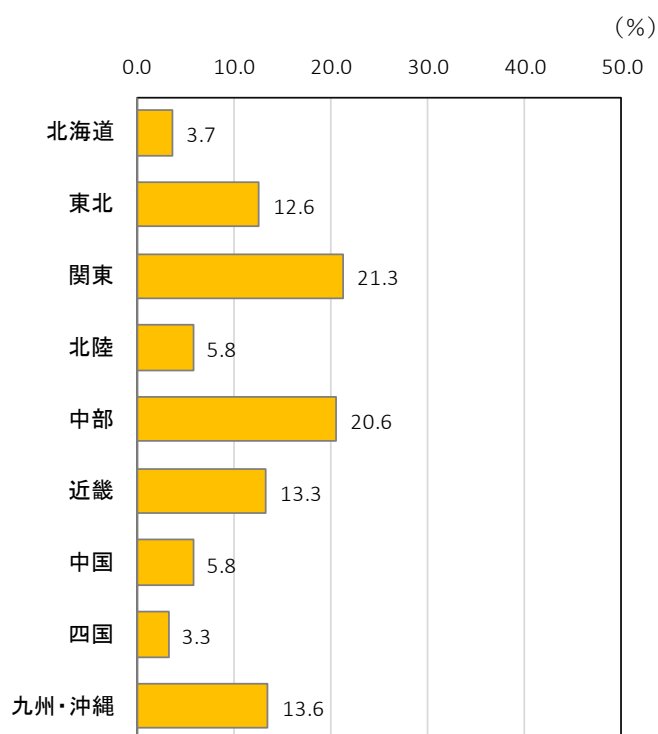
■回答者について

- 「都道府県」から25件（構成比5.8%）、「市区」から403件（構成比94.2%）の回答を得た。
- 回答票の構成比を地域別に見ると、「関東」が21.3%と最も多く、次いで「中部」が20.6%となっている。
- 人口規模別に見ると、「10万人未満」が58.2%と最も多く、次いで「10万人以上20万人未満」が18.0%、「20万人以上50万人未満」が13.6%となっている。



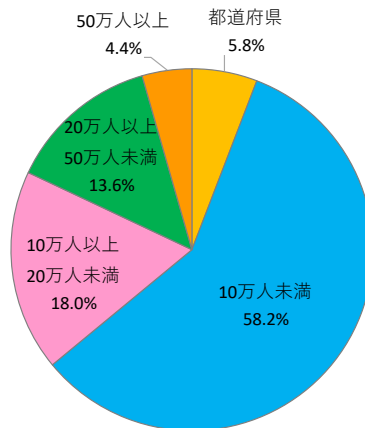
	今回調査		H30度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
都道府県	25	5.8	17	3.8
市区	403	94.2	415	96.1
合計	428	100.0	432	100.0

図 回答自治体



	今回調査		H30 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
北海道	16	3.7	16	3.7
東北	54	12.6	37	8.6
関東	91	21.3	113	26.2
北陸	25	5.8	32	7.4
中部	88	20.6	85	19.7
近畿	57	13.3	57	13.2
中国	25	5.8	27	6.3
四国	14	3.3	19	4.4
九州・沖縄	58	13.6	46	10.6
不明・無回答	0	0.0	0	0.0
合計	428	100.0	432	100.0

図 地方種別



	今回調査		H30 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
都道府県	25	5.8	17	3.9
10 万人未満	249	58.2	253	58.6
10 万人以上 20 万人未満	77	18.0	81	18.8
20 万人以上 50 万人未満	58	13.6	60	13.9
50 万人以上	19	4.4	21	4.9
不明・無回答	0	0.0	0	0.0
合計	428	100.0	432	100.0

図 人口規模別

(1) 「MM教育」の実施状況

1) 「MM教育」の実施

① 「MM教育」の実施

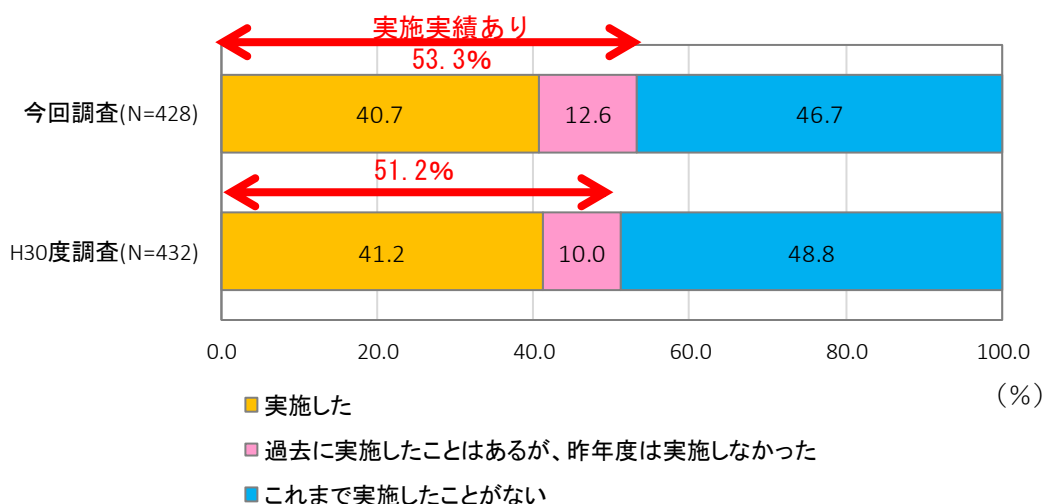
問1 貴自治体では昨年度（平成30年度）に、「MM教育」を実施しましたか？（1つに○）

○MM教育の実施状況は、「実施した」が40.7%で、「過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった」（12.6%）を含めると、今まで実施実績がある自治体は53.3%となっている。

○昨年度調査と比較すると、実施実績のある自治体の割合は2.3ポイント増加している。

○地方別に見ると、半数以上の自治体に実施実績があるのは北海道（68.8%）、北陸（60.0%）、中部（61.4%）、近畿（57.9%）、中国（68.0%）、四国（64.3%）である。

○都道府県の実施率は76.0%、市区の実施率は52.1%となっており、市区について人口規模別にみると、人口規模が大きいほど実施率が高く、50万人以上の自治体では73.7%となっている。



	今回調査		H30度調査		H29度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
実施した	174	40.7	178	41.2	171	34.2
過去に実施したことはあるが、 昨年度は実施しなかった	54	12.6	43	10.0	44	8.8
これまで実施したことがない	200	46.7	211	48.8	283	56.6
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	2	0.4
合計	428	100.0	432	100.0	500	100.0
実施したことがある	228	53.3	221	51.2	215	43.0

図「MM教育」の実施

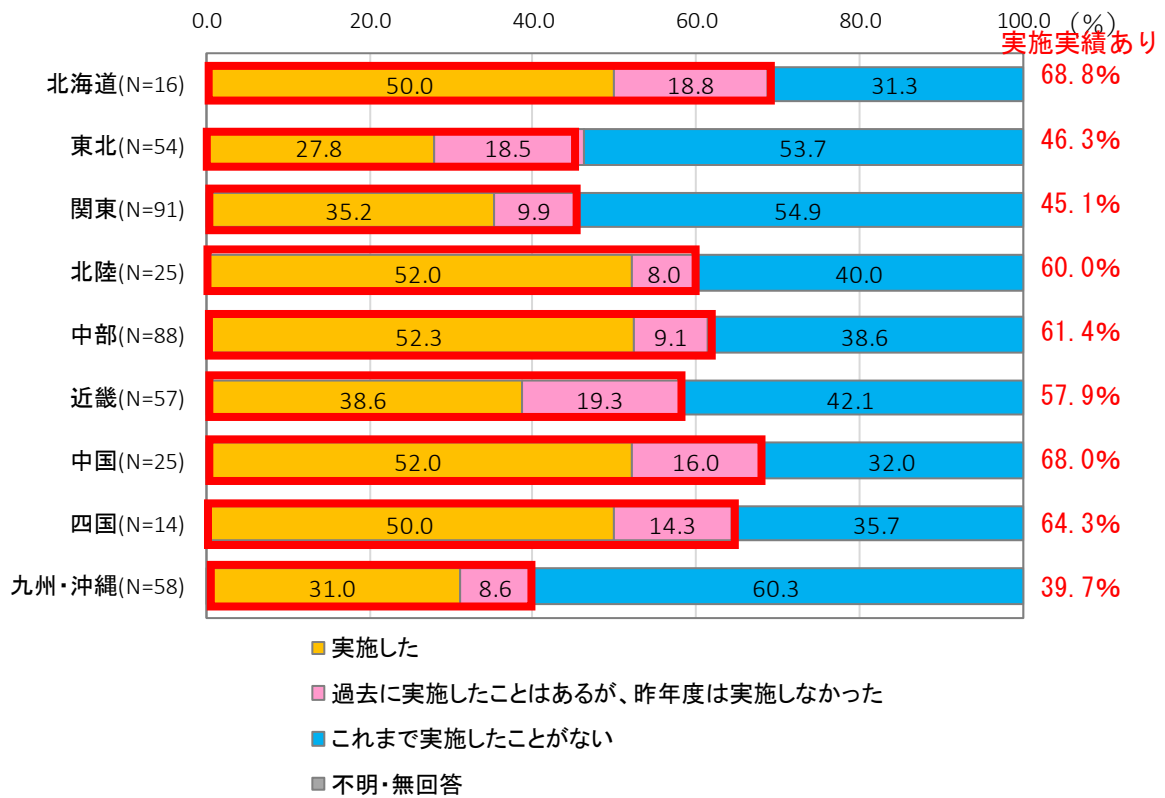


図 地方別「MM教育」の実施状況

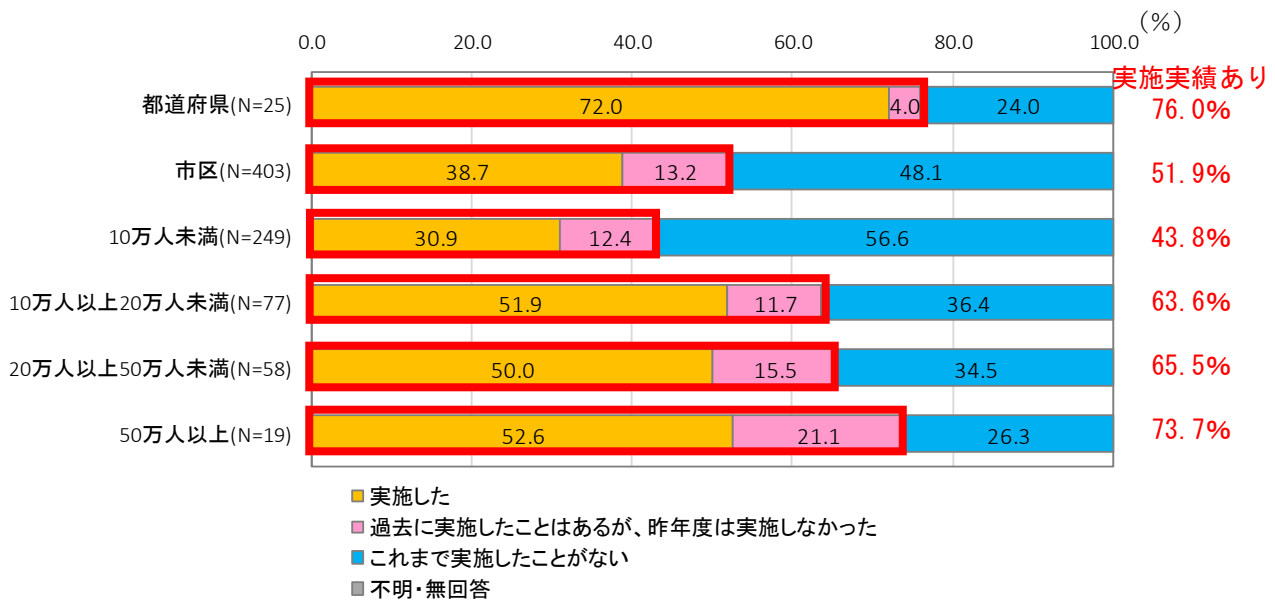


図 人口規模別「MM教育」の実施状況

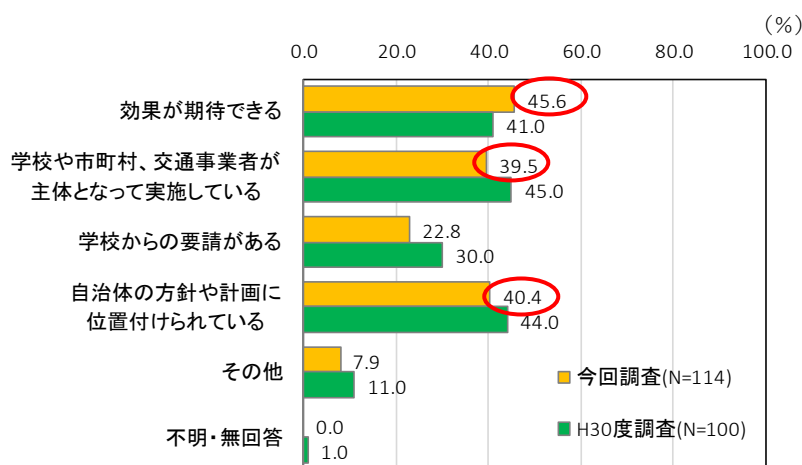
②「MM教育」を継続的に実施できる理由

(昨年度調査でMM教育の実施が確認された自治体のみ)

(問1で「1」(実施した)とお答えの方にお伺いします。)

副問 「MM教育」を継続的に実施できる理由は何ですか？(いくつでも)

- 昨年度調査で実施が確認された自治体に、MM教育を継続的に実施できる理由をお聞きしたところ、「効果が期待できる」が45.6%と最も高く、次いで「自治体の方針や計画に位置づけられている」が40.4%、「学校や市町村、交通事業者が主体となって実施している」が39.5%となっている。「学校からの要請がある」は22.8%であった。
- また、期待する効果としては、「公共交通の利用促進・利用者増」が最も多い回答であった。



	今回調査		H30度調査		H29度調査	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)
効果が期待できる	52	45.6	41	41.0	44	50.6
学校や市町村、交通事業者が主体となって実施している	45	39.5	45	45.0	31	35.6
学校からの要請がある	26	22.8	30	30.0	28	32.2
自治体の方針や計画に位置づけられている	46	40.4	44	44.0	37	42.5
その他	9	7.9	11	11.0	11	12.6
不明・無回答	0	0.0	1	1.0	0	0.0
合計(回答対象件数)	114	100.0	100	100.0	87	100.0

図 「MM教育」を継続的に実施できる理由

■「1. 期待する効果」の具体的な内容

分類項目	件数(件)
公共交通の利用促進・利用者増	27
公共交通のことを知ってもらう・興味を持ってもらう	12
利用方法の周知・マナーの向上	6
エコや環境問題に対する意識の啓発	2

■「5. その他」の主な内容

分類項目	件数(件)
学校や地元団体が意欲的である	3
学校や交通事業者以外で実施主体となる団体がある	2
交通安全教室等と併せて実施している	2
その他	2

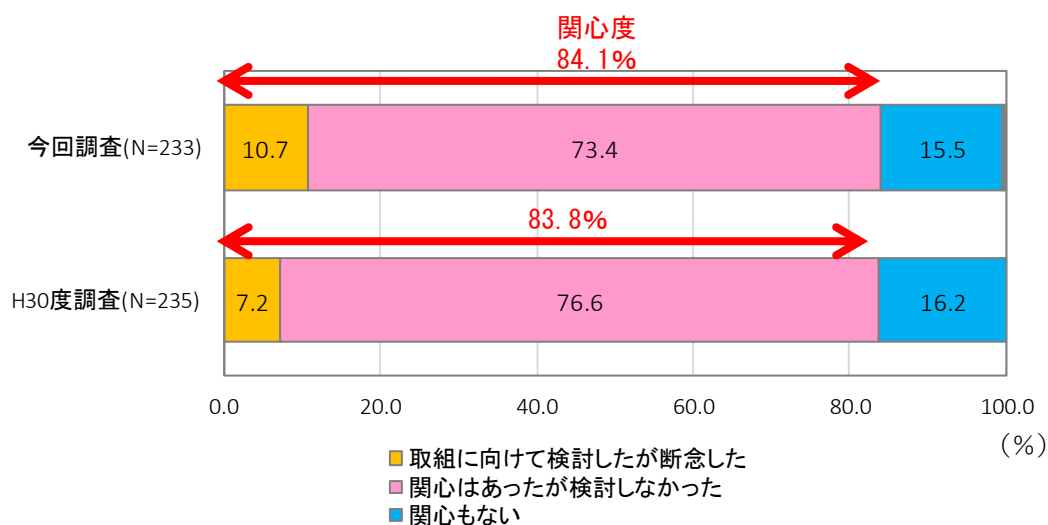
③「MM教育」に取り組む意向

(昨年度調査でMM教育の実施が確認されなかった自治体のみの設問)

(問1で「2」(過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった)「3」(これまで実施したことがない)とお答えの方にお伺いします。)

副問 「MM教育」に取り組む意向はありましたか？ (1つに○)

○実施しなかった自治体に、MM教育に取り組む意向をお聞きしたところ、「関心はあったが検討しなかった」が73.4%と最も多く、次いで「関心もない」が15.5%、「取組に向けて検討したが断念した」は10.7%となっている。「取組に向けて検討したが断念した」と「関心はあったが検討しなかった」をあわせると、関心のある自治体は84.1%と8割を超えている。



	今回調査		H30度調査		H29度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
取組に向けて検討したが断念した	25	10.7	17	7.2	22	7.0
関心はあったが検討しなかった	171	73.4	180	76.6	236	75.2
関心もない	36	15.5	38	16.2	54	17.2
不明・無回答	1	0.4	0	0.0	2	0.6
合計(回答対象件数)	233	100.0	235	100.0	314	100.0
関心がある	196	84.1	197	83.8	258	82.2

図 「MM教育」に取り組む意向

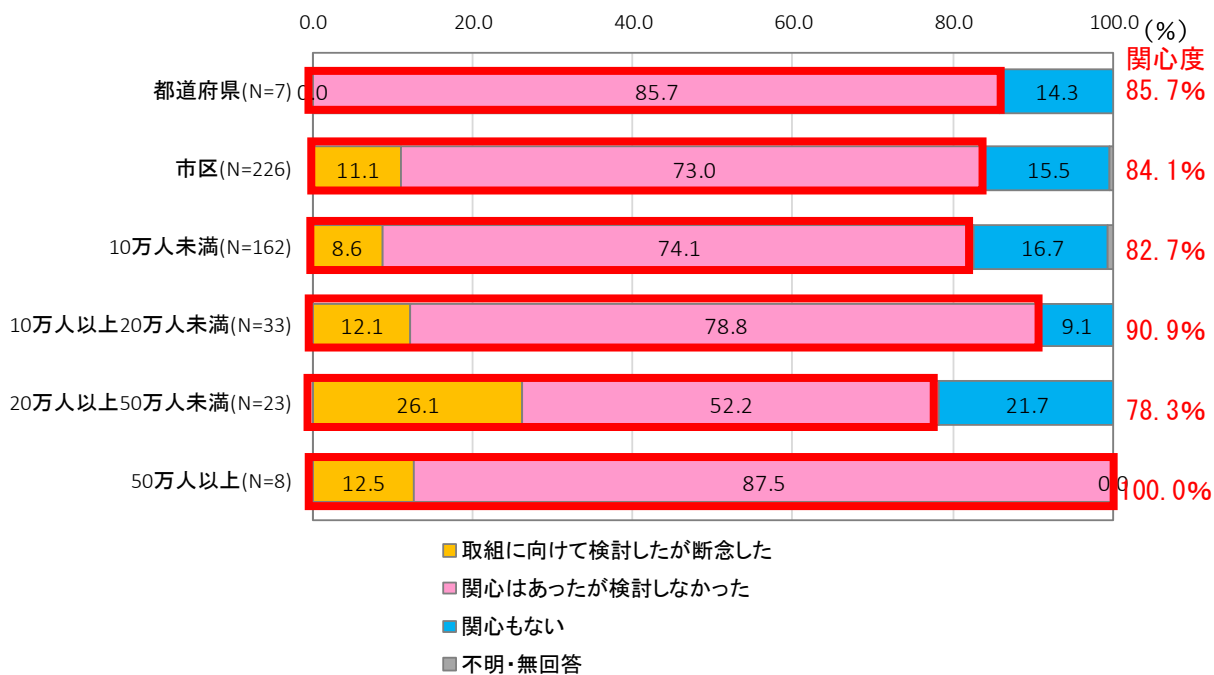


図 自治体規模別「MM教育」に取り組む意向

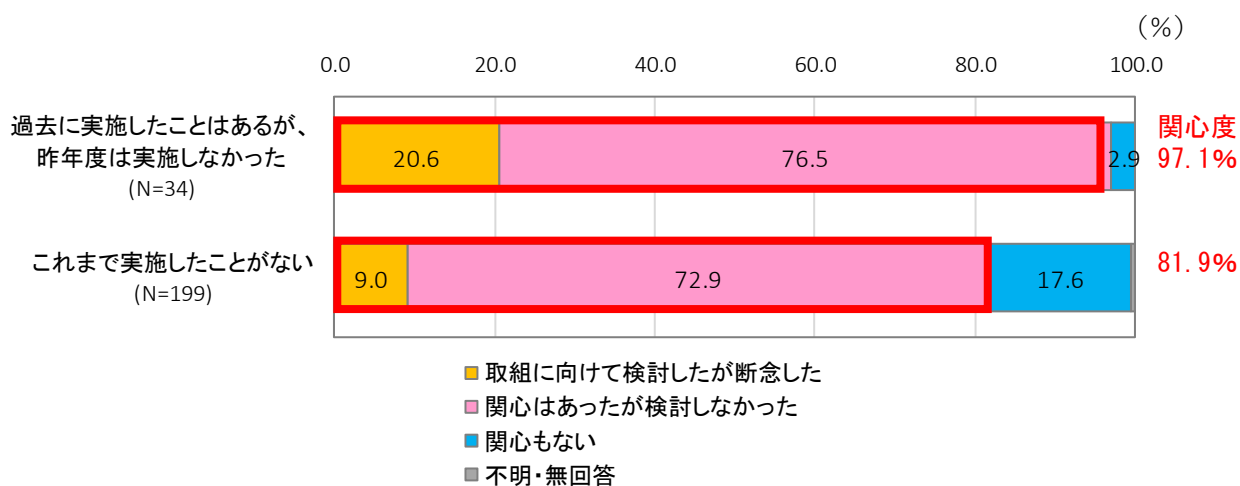


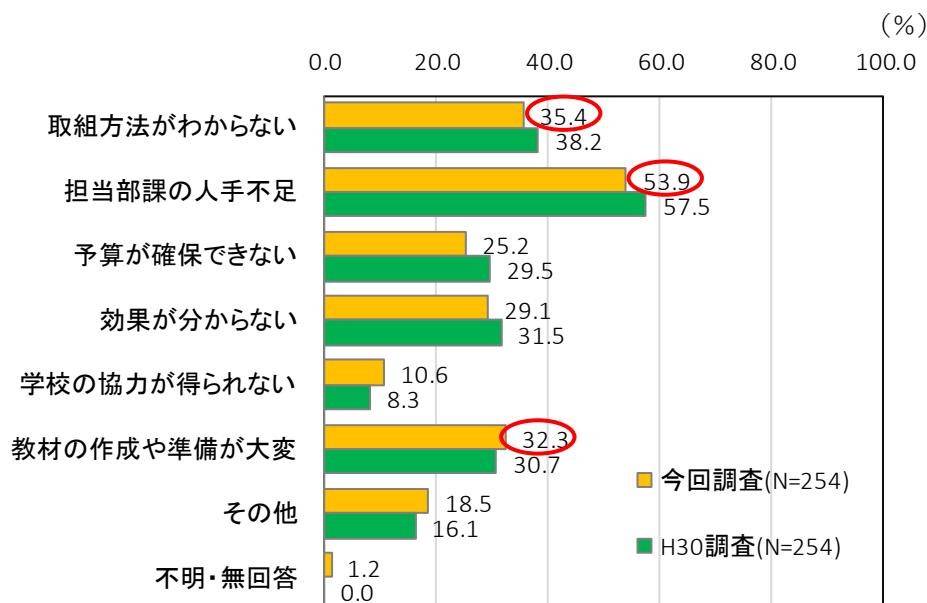
図 実施状況別「MM教育」に取り組む意向

④実施しなかった理由

(問1で「2」(過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった)「3」(これまで実施したことがない)とお答えの方にお伺いします。)

副問 「MM教育」を実施しなかった理由は何ですか？(いくつでも)

○「担当部課の人手不足」が53.9%と回答者の半数以上を占め、次いで「取組方法がわからない」が35.4%、「教材の作成や準備が大変」が32.3%、「効果がわからない」が29.1%、「予算が確保できない」が25.2%と続く。



	今回調査		H30度調査		H29度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
取組方法がわからない	90	35.4	97	38.2	119	36.4
担当部課の人手不足	137	53.9	146	57.5	182	55.7
予算が確保できない	64	25.2	75	29.5	94	28.7
効果がわからない	74	29.1	80	31.5	91	27.8
学校の協力が得られない	27	10.6	21	8.3	22	6.7
教材の作成や準備が大変	82	32.3	78	30.7	85	26.0
その他	47	18.5	41	16.1	64	19.6
不明・無回答	3	1.2	0	0.0	4	1.2
合計(回答対象件数)	254	100.0	254	100.0	327	100.0

図 実施しなかった理由

■ 「7.その他」の主な意見

分類項目	件数(件)
他に優先する業務がある	3
必要性を感じていない・実施の検討をしていない	4
関係機関との調整がうまくいかなかった	8
今年度取組んだ・検討をしている	5
依頼がなかった	9
学校に余裕がない	4
他の実施主体が取り組んでいる	7
自治体の公共交通に関する計画にない・計画を策定中	4
その他	3

○人口規模に関わらず、「担当部課の人手不足」が多く挙げられている。50万人以上の市区では、「効果が分からない」が最も多く挙げられている。

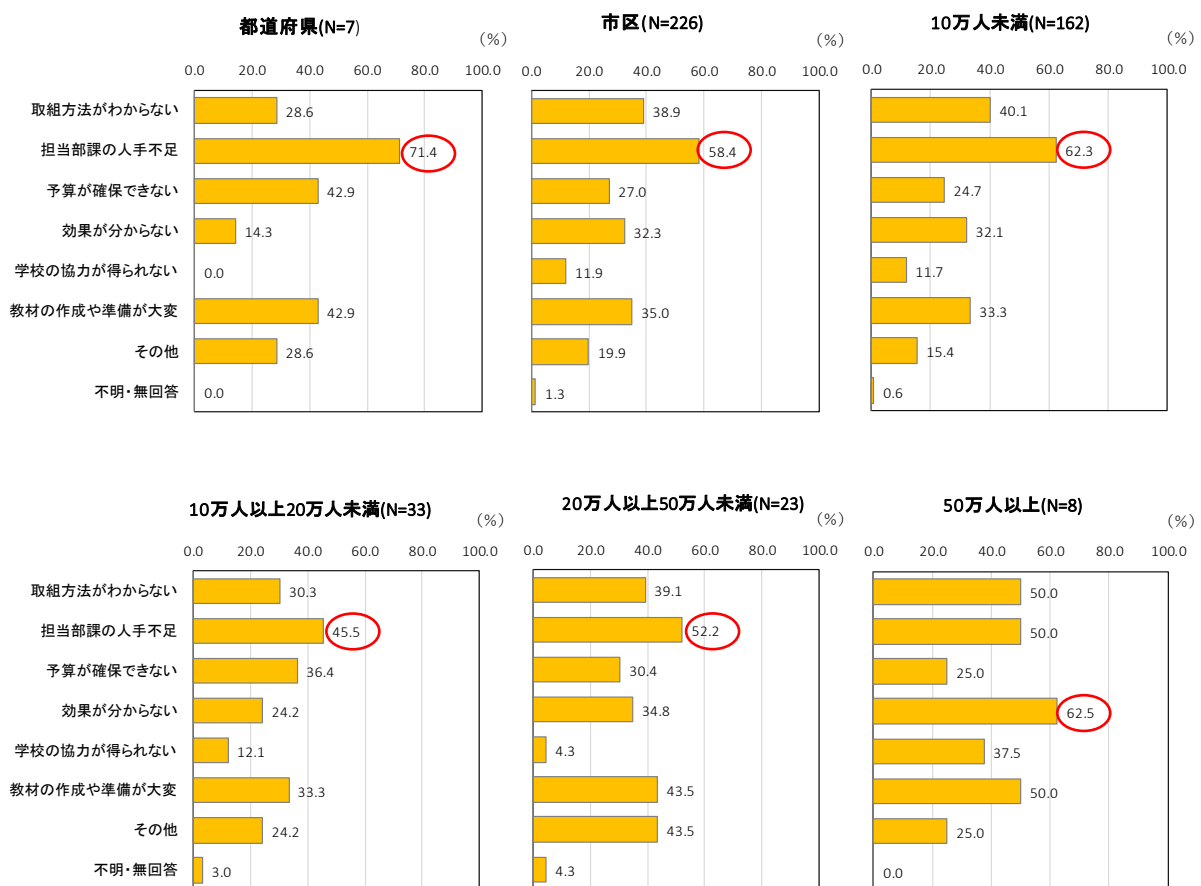


図 人口規模別 実施しなかった理由

【取組む意向別 実施しなかった理由】

○いずれの団体も「担当部課の人手不足」が多く挙げられていた。

○関心のない自治体では、「効果がわからない」も多くなっており、取組効果に疑問を感じている自治体の割合が、関心のある自治体に比べて高い。

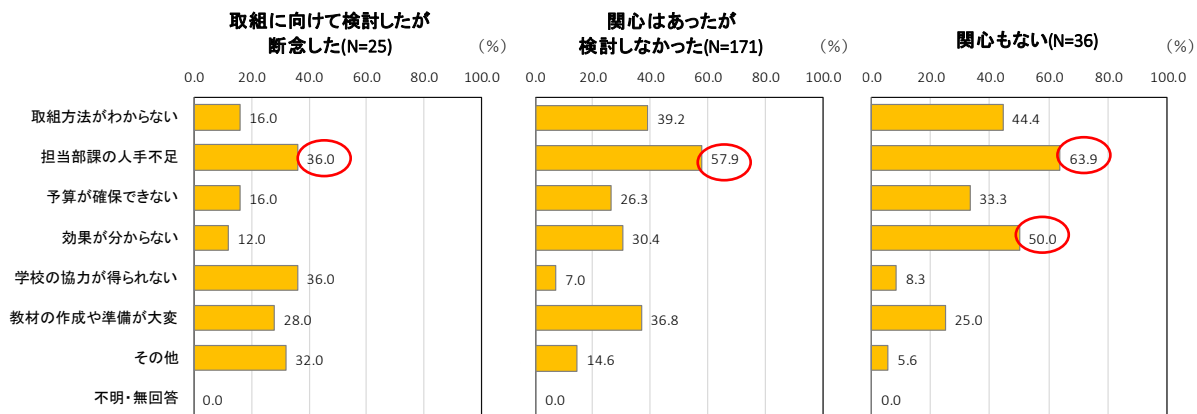


図 取組意向別 実施しなかった理由

2) MM教育の実施方法

(問1で「実施した」と回答した自治体のみ)

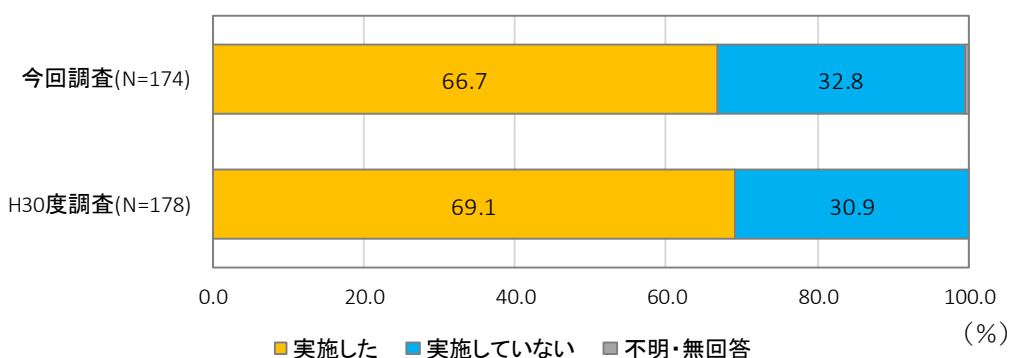
①授業の一環としての「MM教育」の実施

問2 昨年度、貴自治体で取り組まれた「MM教育」の実施方法についてお伺いします。

(1)それは、学校の授業の一環として実施しましたか？

○学校の授業の一環として「実施した」が66.7%を占める。

○地方別にみると、北海道、近畿で授業の一環として「実施した」割合が高い。



	今回調査		H30度調査		H29度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
実施した	116	66.7	123	69.1	129	75.4
実施していない	57	32.8	55	30.9	42	24.6
不明・無回答	1	0.6	0	0.0	0	0.0
合計(回答対象件数)	174	100.0	178	100.0	171	100.0

図 「MM教育」の学校の授業の一環としての実施

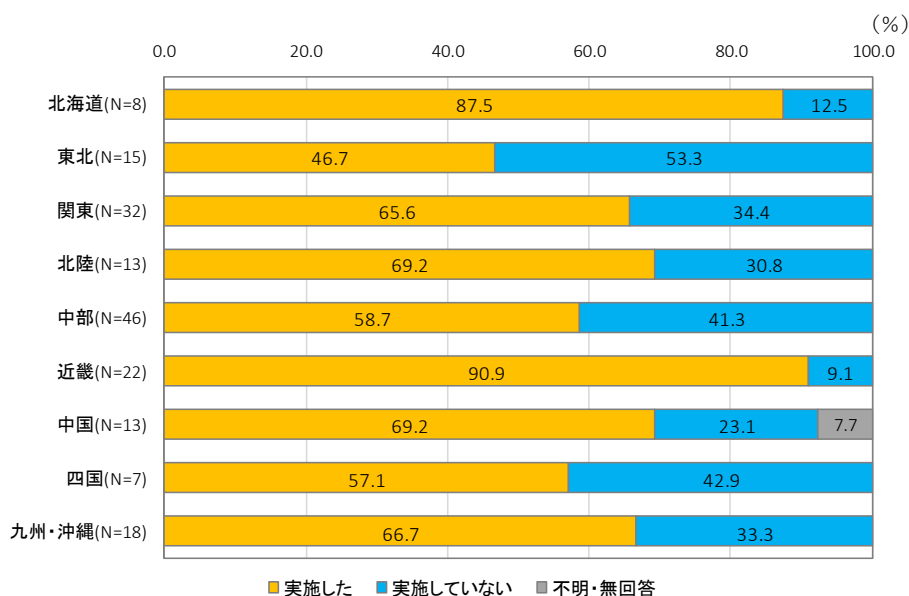


図 地方別「MM教育」の学校の授業の一環としての実施

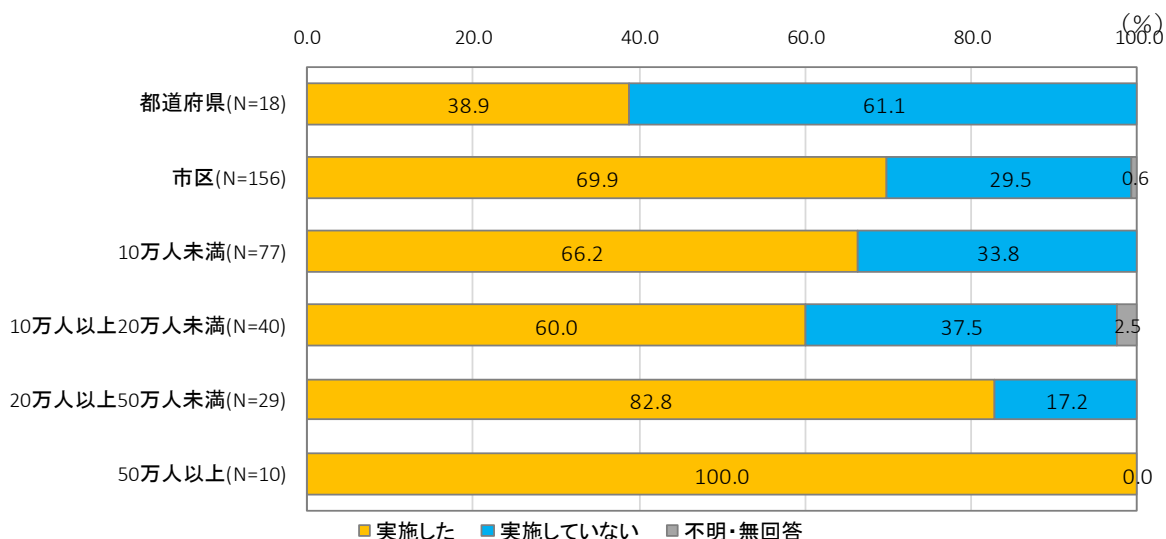


図 人口規模別「MM教育」の学校の授業の一環としての実施

②授業の実施主体

((1) で「1」(学校の授業の一環として実施した)とお答えの方にお伺いします。)

副問 授業の実施主体をお答えください。(いくつでも)

○「貴自治体が学校に依頼して実施」が39.7%と最も多く、次いで「出前講座として学校からの依頼に対応」が32.8%、「各学校が独自カリキュラムで取組」が23.3%の順となっている。

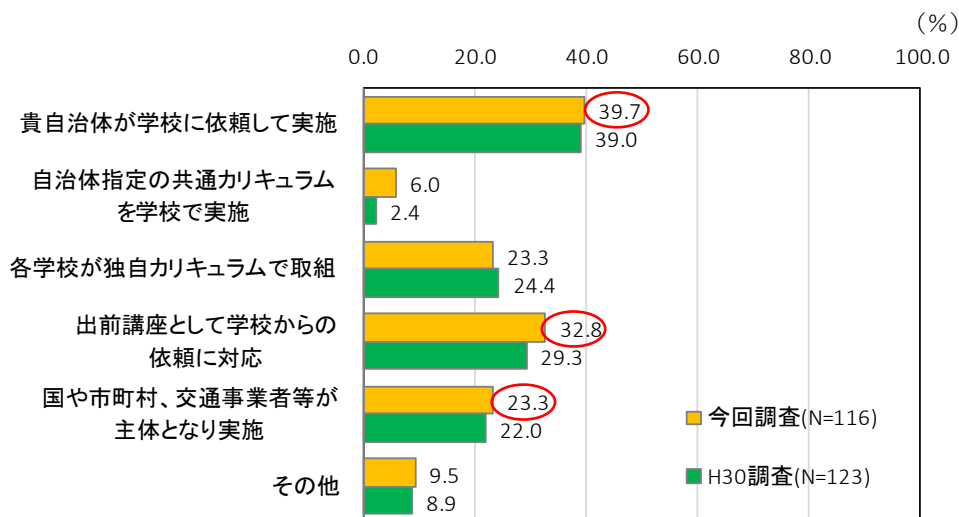


図 授業の実施主体

	今回調査		H30 度調査		H29 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
貴自治体が学校に依頼して実施	46	39.7	48	39.0	42	32.6
自治体指定の共通カリキュラムを 学校で実施	7	6.0	3	2.4	4	3.1
各学校が独自カリキュラムで取組	27	23.3	30	24.4	34	26.4
出前講座として学校からの依頼に 対応	38	32.8	36	29.3	41	31.8
国や市町村、交通事業者等が主体 となり実施	27	23.3	27	22.0	29	22.5
その他	11	9.5	11	8.9	9	7.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計（回答対象件数）	116	100.0	123	100.0	129	100.0

■その他の内容

- ・NPO 法人が主体となり実施
- ・県・市・交通事業者と学校が連携して実施
- ・教諭中心のプロジェクトチームが主体となり実施 など

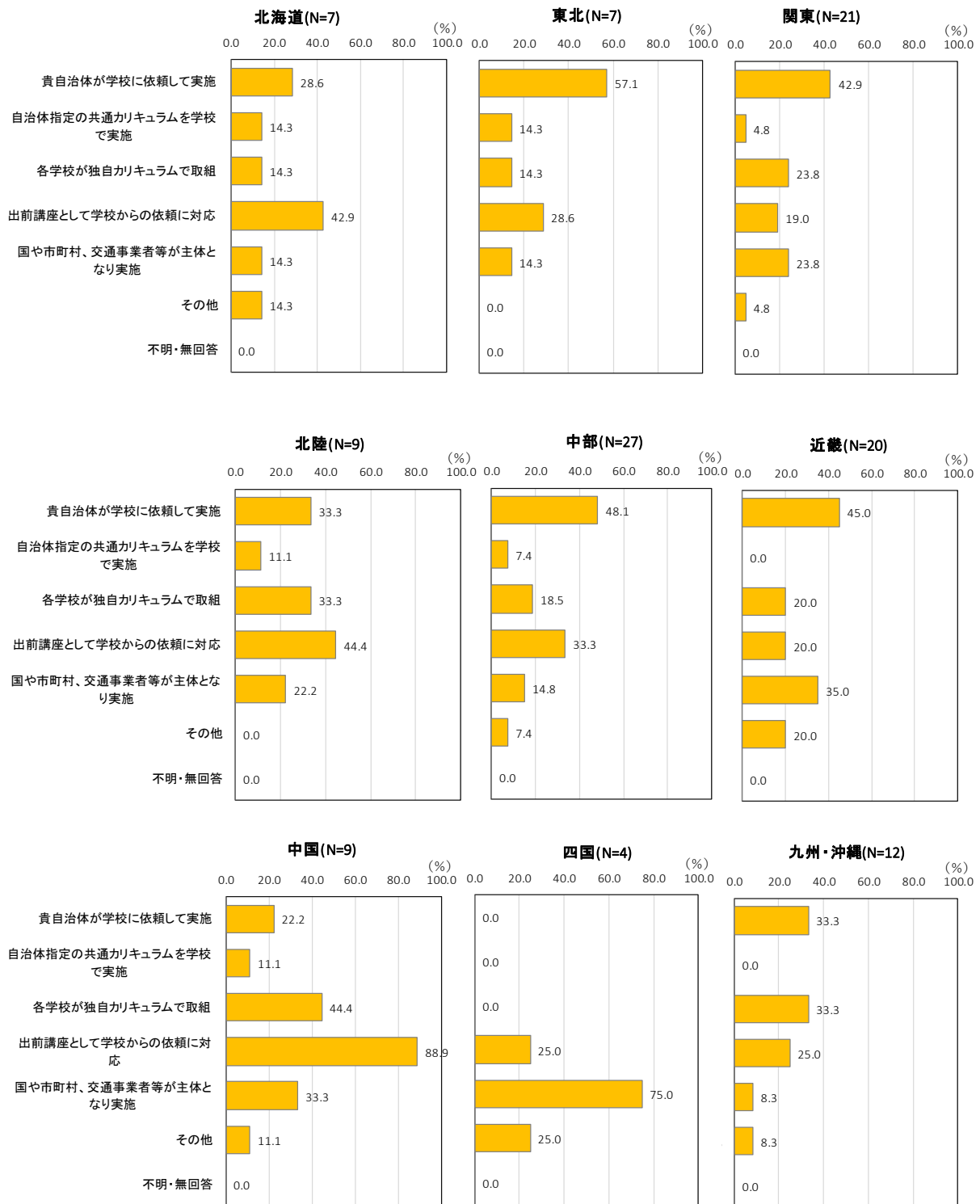


図 地方別 授業の実施主体（複数回答）

③授業以外の実施（自由記述）

(2) 学校の授業以外ではどのような形（フォーラム、バスまつりなど）で実施しましたか？

- 学校の授業以外での実施形式に関する回答は81件あった。
- バスまつりやイベントでの実施が34件と最も多く、次いで学校以外への出前講座、放課後や休日、長期休暇を利用した学習が挙げられた。

表 学校の授業以外での実施形式

分類項目	件数(件)
バスまつり、イベント	34
学校以外（地域や幼稚園、保育園）への出前講座	12
放課後や休日、長期休暇を利用した学習	10
読み物の配布	6
高齢者を対象とした生涯学習、介護予防教室	6
キャンペーン	4
校外学習・遠足と組み合わせた学習	3
コンテスト開催・掲示物	2
交通安全教室と組み合わせた学習	1
その他	3

④授業以外の実施主体

((2) (学校の授業以外での形式) でご回答いただいた方にお伺いします。)

副問 (2) でご回答いただいた活動の実施主体をお答えください。(いくつでも)

- 「貴自治体が主体となり実施」が54.3%と最も多く、次いで「交通事業者が主体となり実施」が33.3%の順となっている。

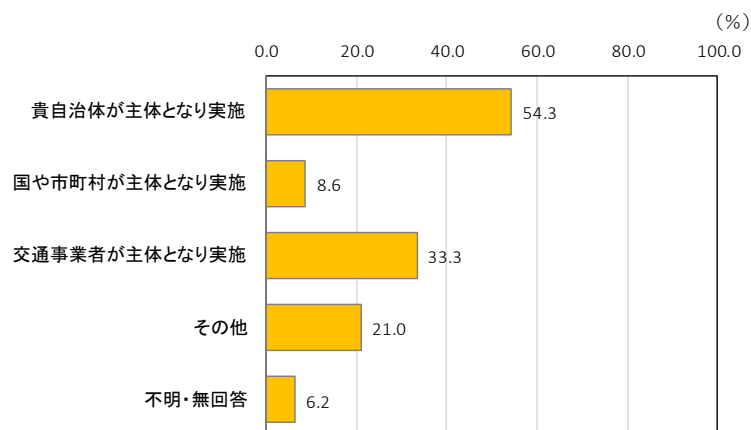


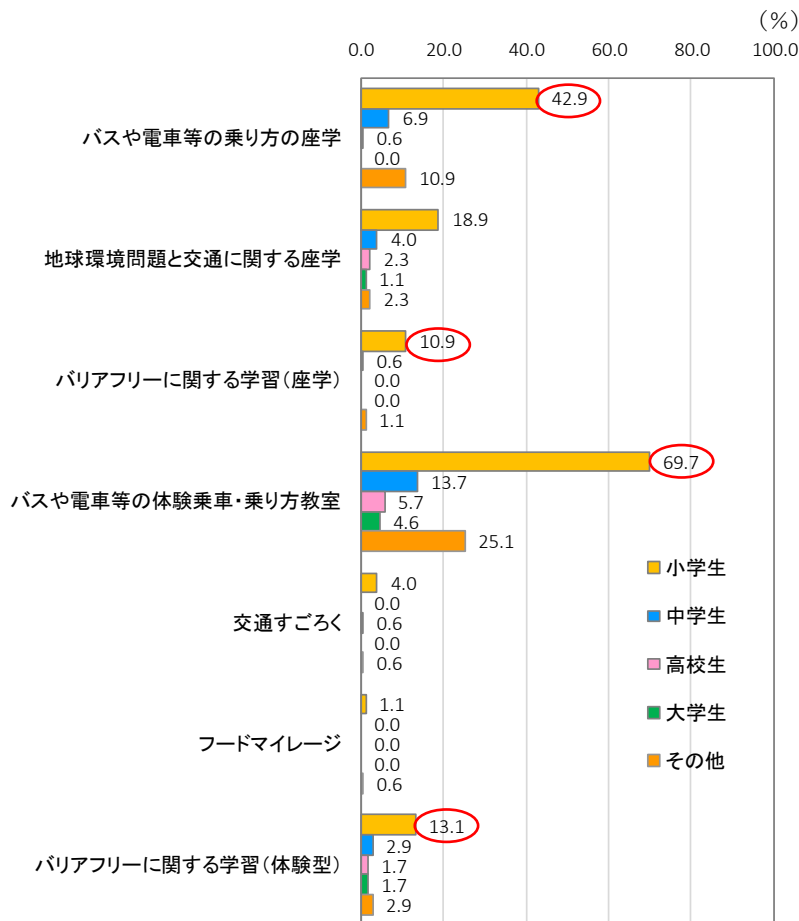
図 授業以外の実施主体

	回答数 (件)	構成比 (%)
貴自治体が主体となり実施	44	54.3
国や市町村が主体となり実施	7	8.6
交通事業者が主体となり実施	27	33.3
その他	17	21.0
不明・無回答	5	6.2
合計 (回答対象件数)	81	100.0

⑤実施した「MM教育」の対象者と内容

問3 実施した「MM教育」の対象者と内容は？
(枠内の該当する部分に○をご記入ください)

- 小学生を対象とした「バスや電車等の体験乗車・乗り方教室」が最も多く69.7%を占め、「バスや電車等の乗り方の座学」が42.9%と続く。
- 「バリアフリーに関する学習(座学)」は小学生で10.9%、「バリアフリーに関する学習(体験型)」は小学生で13.1%、その他の対象で1.7~2.9%となっている。



	回答者数（件）							構成比（％）							
	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	実施団体数	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	実施団体数	
座学	バスや電車等の乗り方の座学	75	12	1	0	19	86	174	43.1	6.9	0.6	0.0	10.9	49.4	100.0
	地球環境問題と交通に関する座学	33	7	4	2	4	136	174	19.0	4.0	2.3	1.1	2.3	78.2	100.0
	バリアフリーに関する学習（座学）	19	1	0	0	2	156	174	10.9	0.6	0.0	0.0	1.1	89.7	100.0
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室	121	24	10	8	44	34	174	69.5	13.8	5.7	4.6	25.3	19.5	100.0
	交通すごろく	7	0	1	0	1	167	174	4.0	0.0	0.6	0.0	0.6	96.0	100.0
	フードマイレージ	2	0	0	0	1	172	174	1.1	0.0	0.0	0.0	0.6	98.9	100.0
	バリアフリーに関する学習（体験型）	23	5	3	3	5	172	174	13.2	2.9	1.7	1.7	2.9	98.9	100.0
その他	その他 1	18	8	8	7	11	145	174	10.3	4.6	4.6	4.0	6.3	83.3	100.0
	その他 2	4	2	0	0	1	167	174	2.3	1.1	0.0	0.0	0.6	96.0	100.0

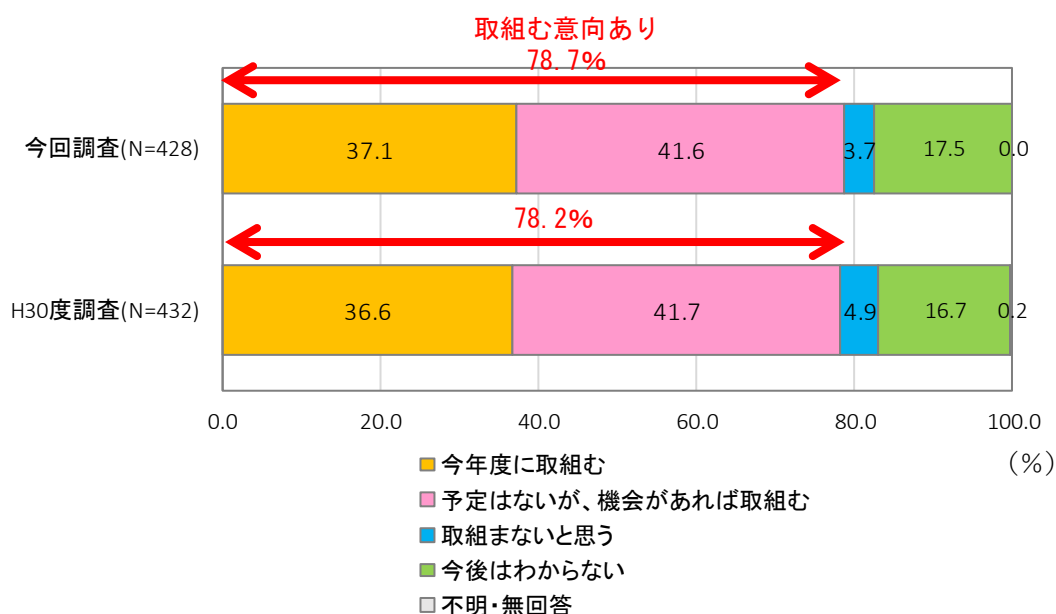
図 「MM教育」の対象者と内容

(2) 今後の「MM教育」について

① 今後「MM教育」に取り組む意向

問4 今後、「MM教育」に取り組む予定はありますか？（1つに○）

- 「予定はないが、機会があれば取組む」が41.6%と最も高く、次いで「今年度に取り組む」が37.1%となっており、「今年度に取り組む」と「予定はないが、機会があれば取組む」とをあわせた今後の取組意向がある自治体は78.7%となっている。
- 地方別にみると、北海道、東北、北陸、中部、近畿、中国で8割以上の取組意向があり、他地方で7割以上の自治体に今後の取組意向がある。
- 人口規模別にみると、人口規模が大きくなるほど「今年度に取り組む」の割合が高くなっている。人口10万人以上の自治体では、「今年度に取り組む」の方が「予定はないが、機会があれば取組む」より大きい割合を占めている。



	今回調査		H30度調査		H29度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)
今年度に取り組む	159	37.1	158	36.6	83	20.8
予定はないが、機会があれば取組む	178	41.6	180	41.7	173	43.3
取組まないと思う	16	3.7	21	4.9	40	10.0
今後はわからない	75	17.5	72	16.7	102	25.5
不明・無回答	0	0.0	1	0.2	2	0.5
合計	428	100.0	432	100.0	400	100.0
取組む意向あり	337	78.7	338	78.2	256	64.0

図 「MM教育」に取り組む予定

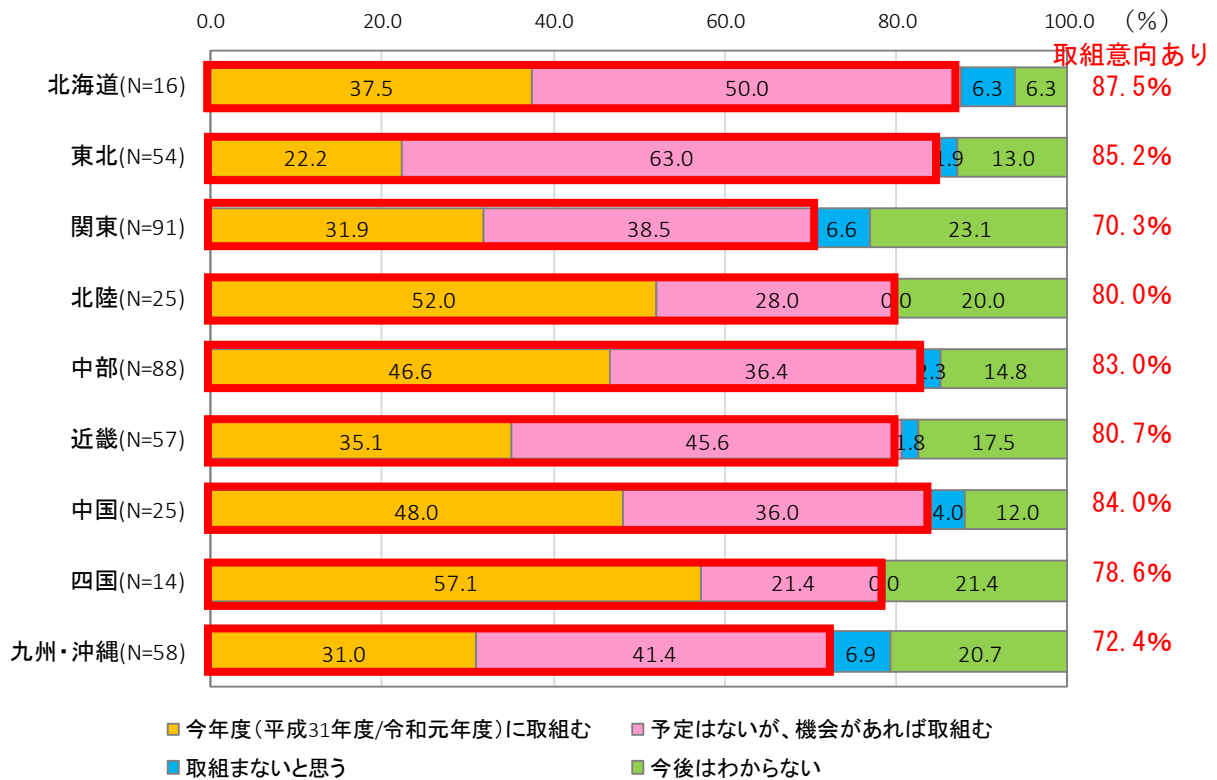


図 地方別「MM教育」に取組む意向

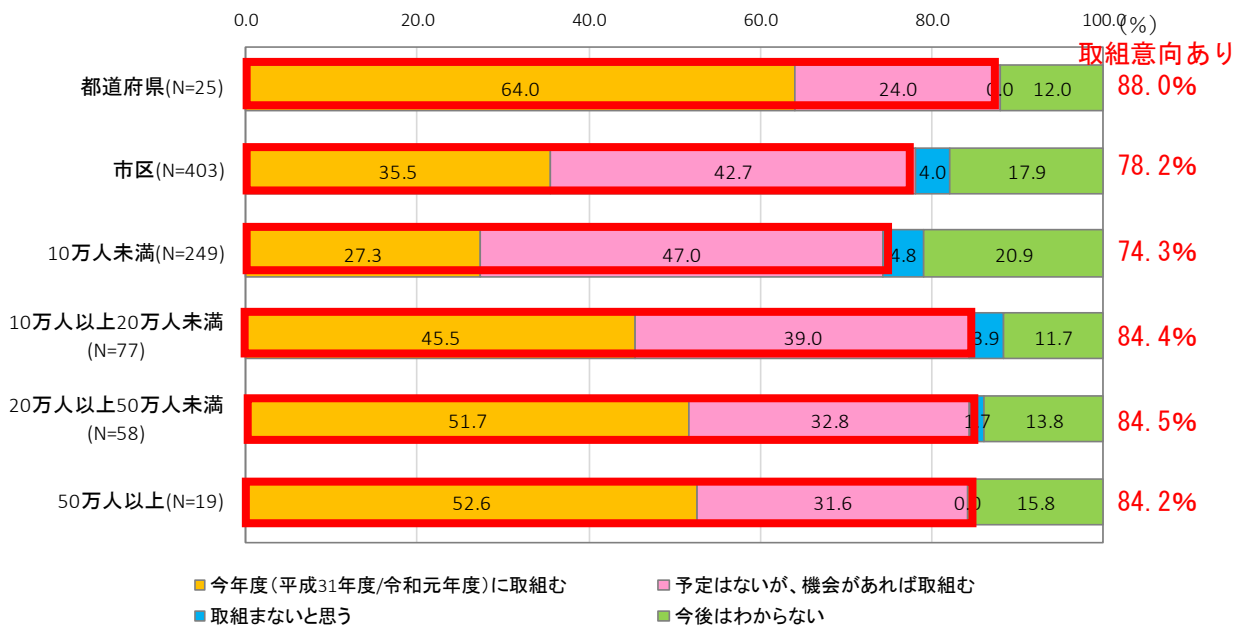


図 人口規模別「MM教育」に取組む意向

○昨年度にMM教育を実施した団体ではほとんどが取組意向を示している。これまで取り組んだことがない自治体でも、半数以上が取組む意向を示している。

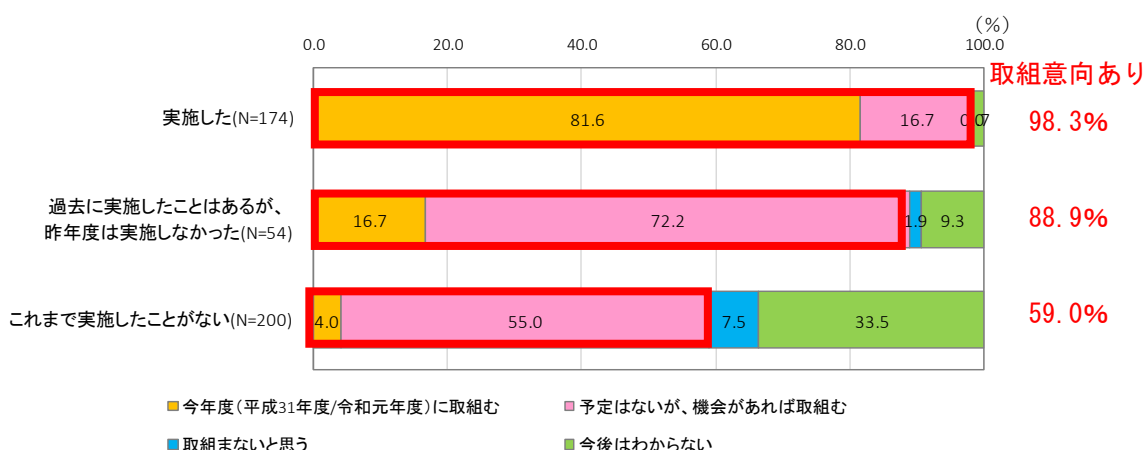


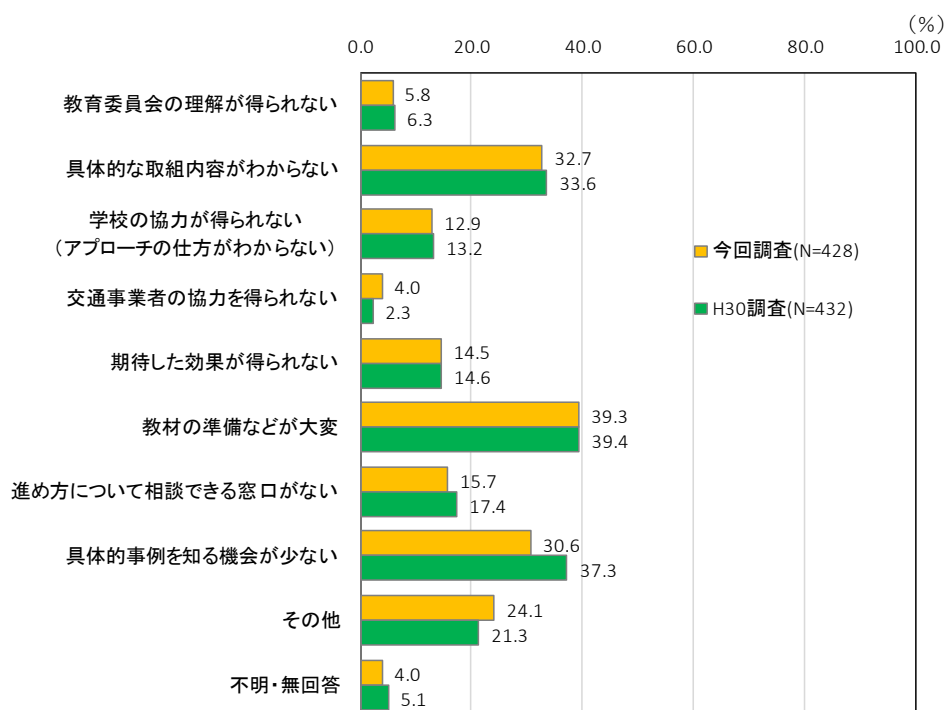
図 実施実績別「MM教育」に取り組む意向

②「MM教育」に取り組んでいく上での課題や障壁

問5 「MM教育」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

○「教材の準備などが大変」が39.3%と最も高く、次いで「具体的事例な取組内容がわからない」が32.7%、「具体的事例を知る機会が少ない」が30.6%となっている。

○先述の実施しなかった団体における理由が「担当部課の人手不足」であったことと併せて考えると、MM教育の実施方法や使用する教材に関する情報提供が充実することで、担当部課の負担が軽減されることから、実施できる団体が増える可能性があるものと推察される。



	今回調査		H30 度調査		H29 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)
教育委員会の理解が得られない	25	5.8	27	6.3	22	4.4
具体的な取組内容がわからない	140	32.7	145	33.6	179	35.8
学校の協力が得られない (アプローチの仕方がわからない)	55	12.9	57	13.2	78	15.6
交通事業者の協力を得られない	17	4.0	10	2.3	23	4.6
期待した効果が得られない	62	14.5	63	14.6	63	12.6
教材の準備などが大変	168	39.3	170	39.4	195	39.0
進め方について相談できる窓口がない	67	15.7	75	17.4	73	14.6
具体的事例を知る機会が少ない	131	30.6	161	37.3	147	29.4
その他	103	24.1	92	21.3	103	20.6
不明・無回答	17	4.0	22	5.1	49	9.8
合計 (回答対象件数)	428	100.0	432	100.0	500	100.0

図 「MM教育」に取組んでいく上での課題や障壁

■ 「その他」の主な項目

分類項目	件数(件)
担当課の人手不足	18
効果の把握方法	12
予算の確保	12
関係機関との調整・学校の理解	9
授業時間が確保できない	9
「交通環境学習」の認知度・優先度の低さ	5
教材開発・学習内容	4
学習を継続・拡大する難しさ	4
課題は障壁はない・認識していない	21
その他	9

○人口規模別にみると、いずれの人口規模においても「教材の準備が大変」の割合が高くなっている。10万人未満では、「具体的な取組み方法がわからない」、20万人以上では「その他」も多く挙げられている。

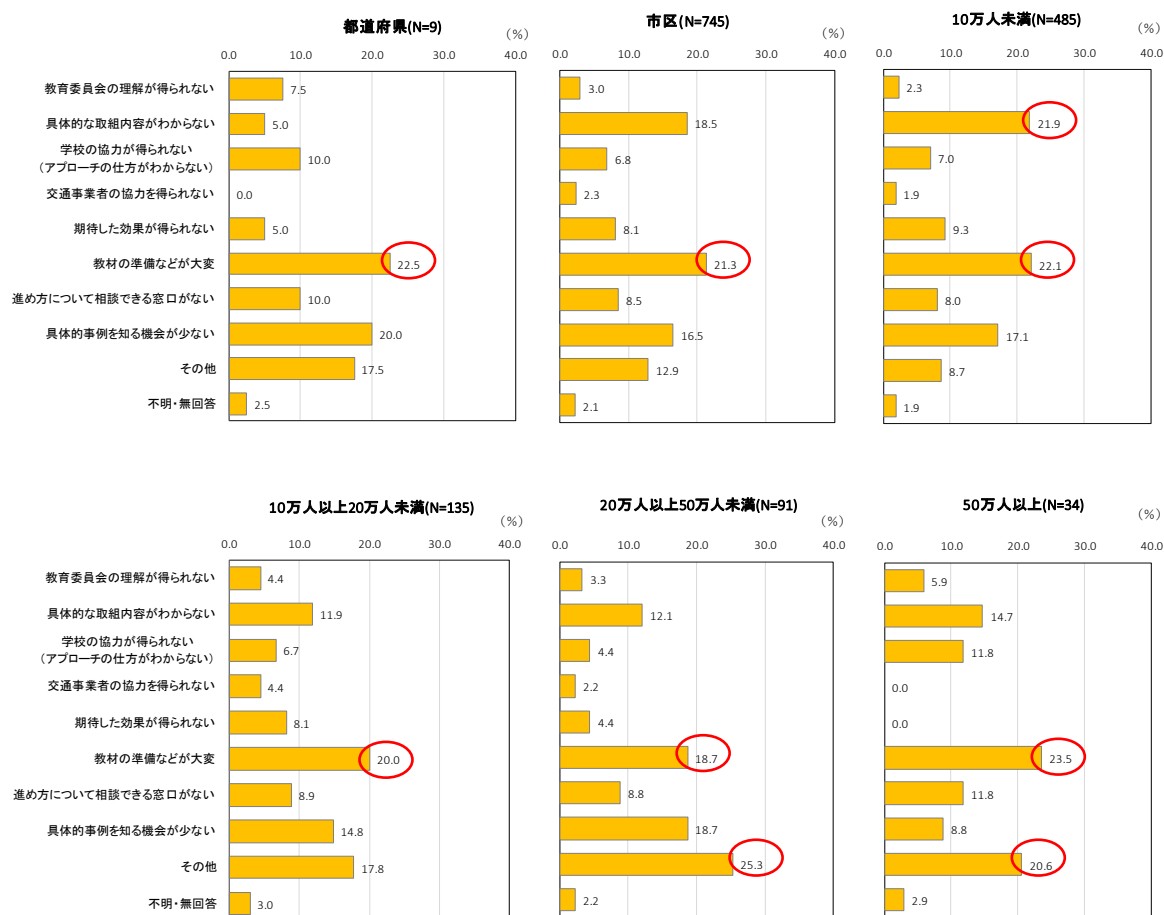


図 人口規模別「MM教育」に取り組んでいく上での課題や障壁（複数回答）

③「MM教育」に取り組む場合に予想される問題点や支援してほしい事柄（自由記述）

問6 今後、貴自治体において「MM教育」に取り組む場合に、予想される問題点や、支援してほしい事柄などについて、具体的に教えてください。

- 取組に向けて予想される問題点や支援してほしい内容について下記の分類で自由意見を整理した。問題や課題に関する意見が109件あり、うち「学校の理解・協力・調整」に関することが最も多く32件の意見があった。
- 支援内容に関する意見は93件で、「事例紹介」「学習プログラム・教材・ノベルティの提供」に関する意見が多く挙げられた。
- ※なお、ひとつの意見に複数の分類が重なっているため、回答自治体数の合計と一致しない。

表 取組に向けて予想される問題点や支援要望内容（自由記述内容）

分類項目	件数(件)
予想される問題や課題	109
学校の理解・協力・調整	32
予算の確保	13
学習内容・教材の検討	12
効果への疑問・効果のわかりにくさ	11
交通事業者との調整	8
担当課の人手不足	7
ノウハウ不足	6
公共交通が身近でない・利便性が低い	5
庁内の理解、調整	4
実施校・参加者の確保	3
その他	8
支援してほしい事柄	71
事例紹介	15
学習プログラム・教材・ノベルティの提供	14
費用負担・補助	10
講師等人員の派遣	8
ノウハウ提供、相談体制、研修会	6
国への働きかけ	4
学校による主体的取組の促進	2
その他	12

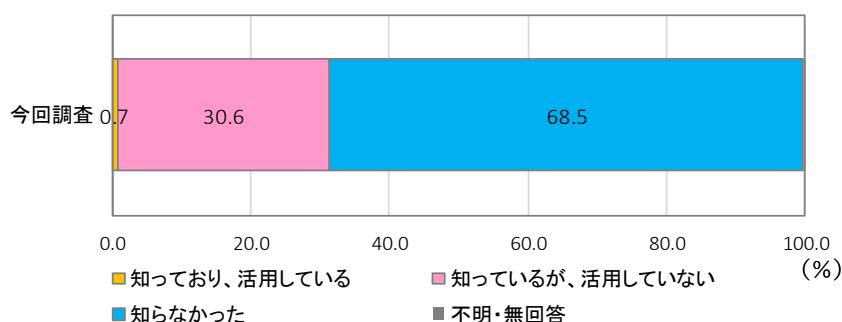
(3) 「MM教育」の教材の活用状況について

1) エコモ財団が提供する教材

① エコモ財団が提供する教材の認知度

問7 エコモ財団 HP において、MM教育の教材や取組事例が入手できることを知っていましたか？（1つに○）

- 「知らなかった」が68.5%と最も高く、次いで「知っているが、活用していない」が30.6%、「知っており、活用している」が0.7%となっている。
- 昨年度の「MM教育」の実施実績別にみると、「知っており、活用している」は実施した自治体の中でも1.7%であり、「実施した」「過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった」でも6割以上が教材を認知していない。エコモ財団が提供する教材について広く知られていなかったことが分かった。



	回答数 (件)	構成比 (%)
知っており、活用している	3	0.7
知っているが、活用していない	131	30.6
知らなかった	293	68.5
不明・無回答	1	0.2
合計	428	100.0

図 エコモ財団が提供する教材の認知度

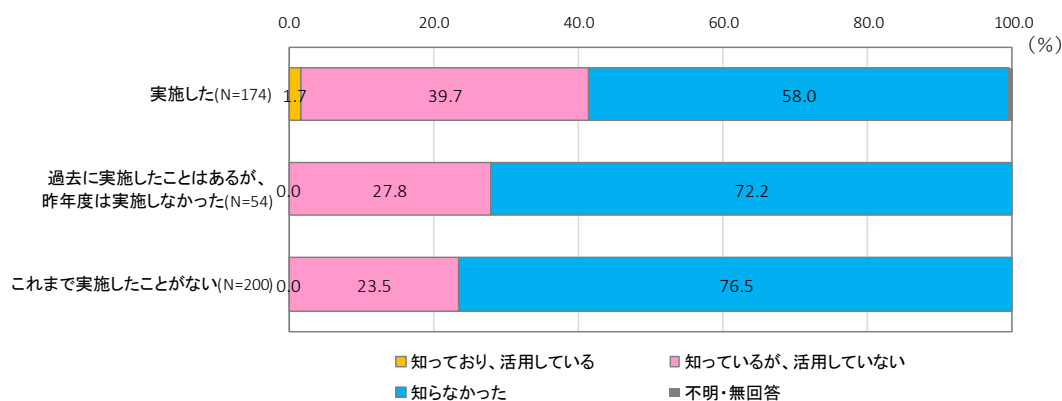


図 実施実績別 エコモ財団が提供する教材の認知度

②エコモ財団が提供する教材の活用状況

(問7で「1」(知っており、活用している)とお答えの方にお伺いします。)

問8 エコモ財団 HP で公開している教材や事例のうち、活用した教材、事例についてご回答ください。

(1) 活用した教材・事例(該当する項目に○をつけてください)

- エコモ財団 HP の教材や事例を活用している3自治体に活用した教材・事例を聞いたところ、「バス乗車体験を通して公共交通に親しもう。」が3件、「まちの空気の様子と原因を考えよう。」「地球環境問題の現状と影響を学ぼう。」「交通におけるCO2の排出を減らそう。」「普段の暮らしの中で環境対策をしよう。」「まちの電車・バスの様子を調べよう。」「総合的な学習の時間での課題発見・実践学習」がそれぞれ1件となった。

(2) 教材・事例を活用した先生方の感想をお聞きになっている場合は、その内容をご記入ください。

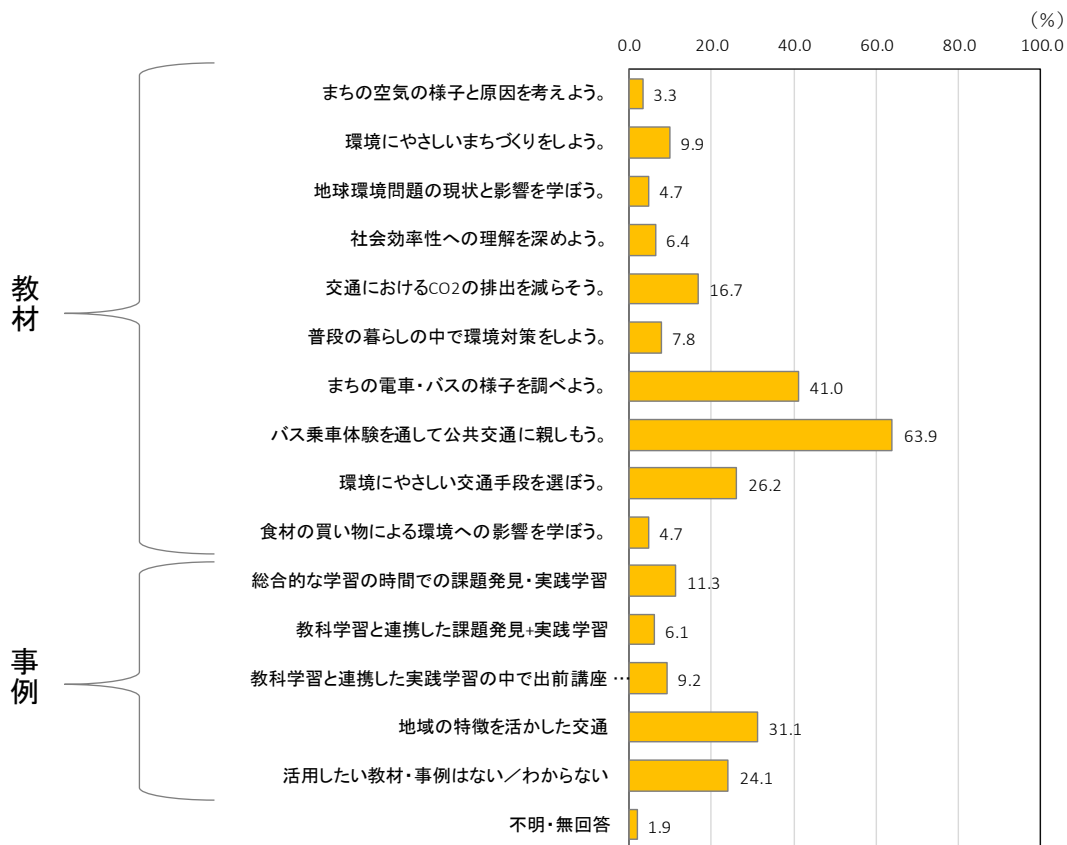
- エコモ財団の教材を活用している自治体のうち、感想についての回答は得られなかった。

③エコモ財団が提供する教材への期待

(問7で「2」(知っているが、活用していない)「3」(知らなかった)とお答えの方にお伺いします。)

問9 エコモ財団 HP で公開している教材や事例のうち、貴自治体のMM教育の取り組みにおいて活用したいものがあればご回答ください。(該当する項目に○をつけてください)

- エコモ財団 HP で教材や取組事例を入手できることを知らなかった自治体に活用したい教材や事例を聞いたところ、教材では「バス乗車体験を通して公共交通に親しもう。」が63.9%と最も多く、次いで「まちの電車・バスの様子を調べよう。」が41.0%、「環境にやさしい交通手段を選ぼう。」が26.2%となった。事例では、「地域の特徴を活かした交通」が31.1%となっている。
- 教材への期待については、問1におけるMM教育に期待する効果として、「公共交通の利用促進・利用者増」に対する回答が最も多かったこととも整合していると考えられる。



		回答数 (件)	構成比 (%)
教材	まちの空気の様子と原因を考えよう。	14	3.3
	環境にやさしいまちづくりをしよう。	42	9.9
	地球環境問題の現状と影響を学ぼう。	20	4.7
	社会効率性への理解を深めよう。	27	6.4
	交通におけるCO2の排出を減らそう。	71	16.7
	普段の暮らしの中で環境対策をしよう。	33	7.8
	まちの電車・バスの様子を調べよう。	174	41.0
	バス乗車体験を通して公共交通に親しもう。	271	63.9
	環境にやさしい交通手段を選ぼう。	111	26.2
	食材の買い物による環境への影響を学ぼう。	20	4.7
事例	総合的な学習の時間での課題発見・実践学習	48	11.3
	教科学習と連携した課題発見+実践学習	26	6.1
	教科学習と連携した実践学習の中で出前講座を活用する実践事例	39	9.2
	地域の特徴を活かした交通	132	31.1
	活用したい教材・事例はない／わからない	102	24.1
	不明・無回答	8	1.9
	合計（回答対象件数）	424	100.0

2) 教材に対する意見・要望（自由記述）

問10 MM教育に用いる教材について、「こういったものが欲しい」「こういったものがあれば活用できる」等のご意見・ご要望があればご記入ください。

- 教材の内容に望むこととしては、「親子、幼稚園児、高齢者など幅広い年代に対応した教材」が多く挙げられた。
- また、実際に地域で運行している交通に関する資料や、現在エコモ財団HPで公開されている教材の更新版を望む意見も挙げられた。

表 教材に対する意見・要望

分類項目		件数(件)
内容	親子、幼稚園児、高齢者等幅広い年代に対応した教材	8
	実際に運行している交通に関する資料、事例集など	5
	現教材の内容の更新	2
	その他	10
形式	動画教材、クイズ	4
	バスの料金箱やボタンなど体験型教材	2
	その他	4
その他		2
回答件数		37

2. 教育委員会向けアンケート

2.1 調査の目的

全国の教育委員会を主体としたにおけるMM教育の継続的な実施状況及びMM教育を普及していく上での課題把握を目的とする。

2.2 調査の設計

■調査対象 都道府県及び市の教育委員会（東京 23 区含む）

■調査票本数 860 件（47 都道府県、790 市、東京 23 区）

■調査方法 配布：郵送配布

回収：選択方式（インターネット、FAX、メール）

※メール回答の場合は、MM 学習ポータルサイトからダウンロードできる電子データの調査票を用いる。より回答が簡易にできるよう、配布する電子データの調査票はエクセル形式とした。

■調査時期 令和元年 11 月 25 日（月）～令和元年 12 月 20 日（金）

2.3 調査票の配布・回収の状況

■配布件数 860 件

■有効回収件数（率） 100 件（11.6%）

表 配布件数・有効回収件数

	配布件数 (件)	有効回答	
		回収数 (件)	構成比 (%)
インターネット	860	33	33.0
FAX		7	7.0
メール		60	60.0
総計	860	100	100.0

<参考> 過年度調査の回収方法と回収率 ※調査方法、配布方法は今年度調査を同様

	平成 30 年度調査
インターネット	○
FAX	○
メール	○
有効回収件数	75 (回収率 8.7%)

2.4 調査項目及び調査票の設計

昨年度調査では、調査項目に占める自由記述の設問が多かったため、煩雑さから回答に至らなかった教育委員会が多数あると考えられる。

そこで今年度調査では、自由記述による設問の項目を少なくし、回収率を上げることを図って調査票の設計を行った。

また、自治体向けと同様、エコモ財団が提供する教材・事例に関する設問も取り入れた。

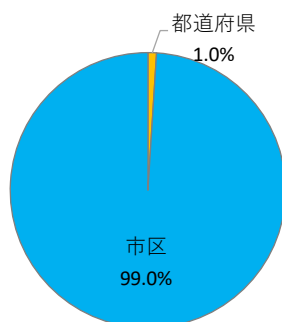
表 調査項目

調査項目		今年度調査	平成30年度調査
①交通環境学習の 取組状況	小学校での取組の有無	○	○
	小学校での代表的な事例		○（記述式）
	小学校以外での事例		○（記述式）
	実施内容	○	
②交通環境学習に 対する考え	教育方針との親和性		○
	教育方針の内容		○（記述式）
	取組の効果	○	○
	取組の課題や障壁	○	○
③交通エコモ財団の 教材の活用	教材の認知度	○	
	活用した教材、事例	○	
	活用した感想	○（記述式）	
④交通環境学習の普及・推進への考え		○（記述式）	○（記述式）
⑤属性	連絡先	○	○

2.5 調査結果

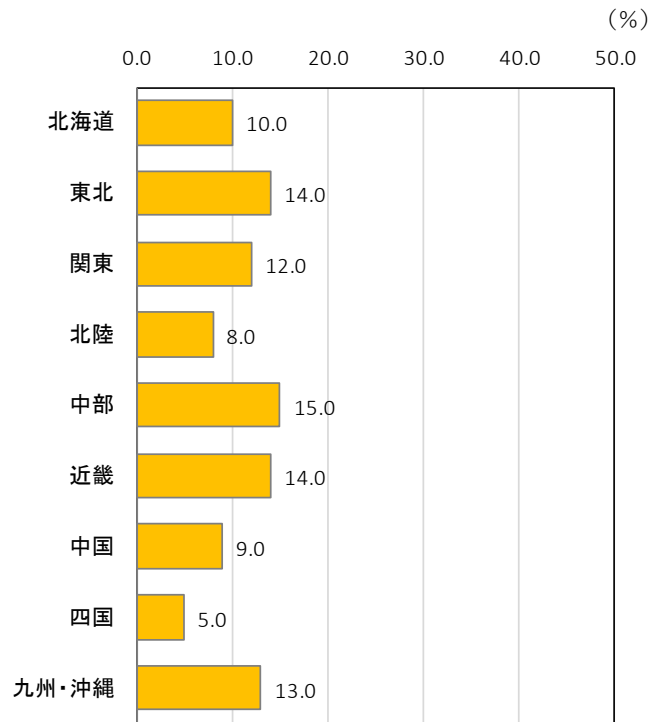
■回答者について

- 「都道府県」から1件（構成比1.0%）、「市区」から99件（構成比99.0%）の回答を得た。
- 構成比を地域別に見ると、「関東」が21.3%と最も多く、次いで「中部」が20.6%となっている。
- 人口規模別に見ると、「10万人未満」が58.2%と最も多く、次いで「10万人以上20万人未満」が18.0%、「20万人以上50万人未満」が13.6%となっている。



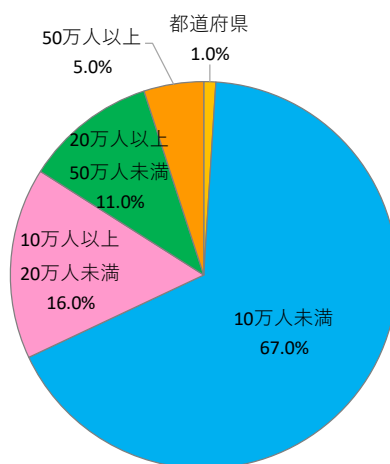
	今回調査		H30度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
都道府県	1	1.0	-	-
市区	99	99.0	-	-
合計	100	100.0	75	100.0

図 回答自治体



	今回調査		H30 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
北海道	10	10.0	-	-
東北	14	14.0	-	-
関東	12	12.0	-	-
北陸	8	8.0	-	-
中部	15	15.0	-	-
近畿	14	14.0	-	-
中国	9	9.0	-	-
四国	5	5.0	-	-
九州・沖縄	13	13.0	-	-
不明・無回答	0	0.0	-	-
合計	100	100.0	75	100.0

図 地方種別



	今回調査		H30 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
都道府県	1	1.0	-	-
10 万人未満	67	67.0	-	-
10 万人以上 20 万人未満	16	16.0	-	-
20 万人以上 50 万人未満	11	11.0	-	-
50 万人以上	5	5.0	-	-
不明・無回答	0	0.0	-	-
合計	100	100.0	75	100.0

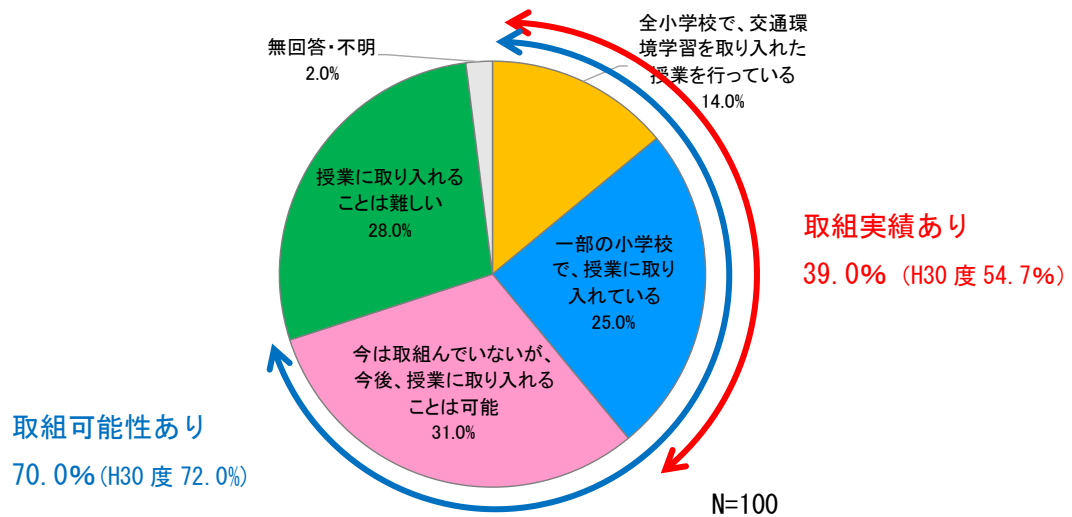
図 人口規模別

(1) 「MM教育」の取組状況

1) 「MM教育」の取組状況

問1 貴教育委員会が所管する小学校では、「MM教育」に取り組んでいますか？（1つに○）

- MM教育の取組状況は、「今は取組んでいないが、今後授業に取り入れることは可能」が 31.0%と最も多く、次いで「授業に取り入れることは難しい」が 28.0%、「一部の小学校で、授業に取り入れている」が 25.0%、「全小学校で、MM教育を取り入れた授業を行っている」が 14.0%となっている。
- 全小学校または一部で授業を行っている取組実績のある教育委員会は 39.0%と、昨年度調査の 54.7%と比較して 15.7ポイント減少している。
- 取組実績のある教育委員会及び、今後授業に取り入れることは可能な取組可能性のある教育委員会は 70.0%と、昨年度の 72.0%と同程度である。



	今回調査		H30度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
全小学校で、MM教育を取り入れた授業を行っている	14	14.0%	17	22.7
一部の小学校で、授業に取り入れている	25	25.0%	24	32.0
今は取組んでいないが、今後、授業に取り入れることは可能	31	31.0%	13	17.3
授業に取り入れることは難しい	28	28.0%	18	24.0
不明・無回答	2	2.0%	3	4.0
合計	100	100.0%	75	100.0

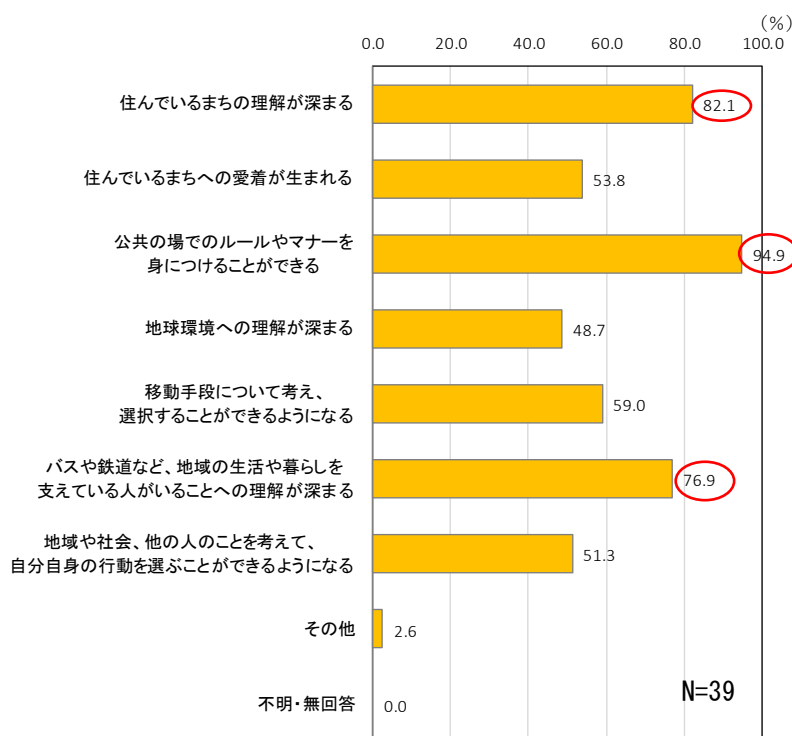
図 「MM教育」の取組状況

2) MM教育の効果

(問1で「全小学校でMM教育を取り入れた授業を行っている」「一部の小学校で、授業に取り入れている」と回答した教育委員会のみ)

問2 「MM教育」には、どのような効果があるとお考えですか。

- 「公共の場でのルールやマナーを身に着けることができる」が94.9%と最も多く、次いで「住んでいるまちの理解が深まる」が82.1%、「バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる」が76.9%となった。



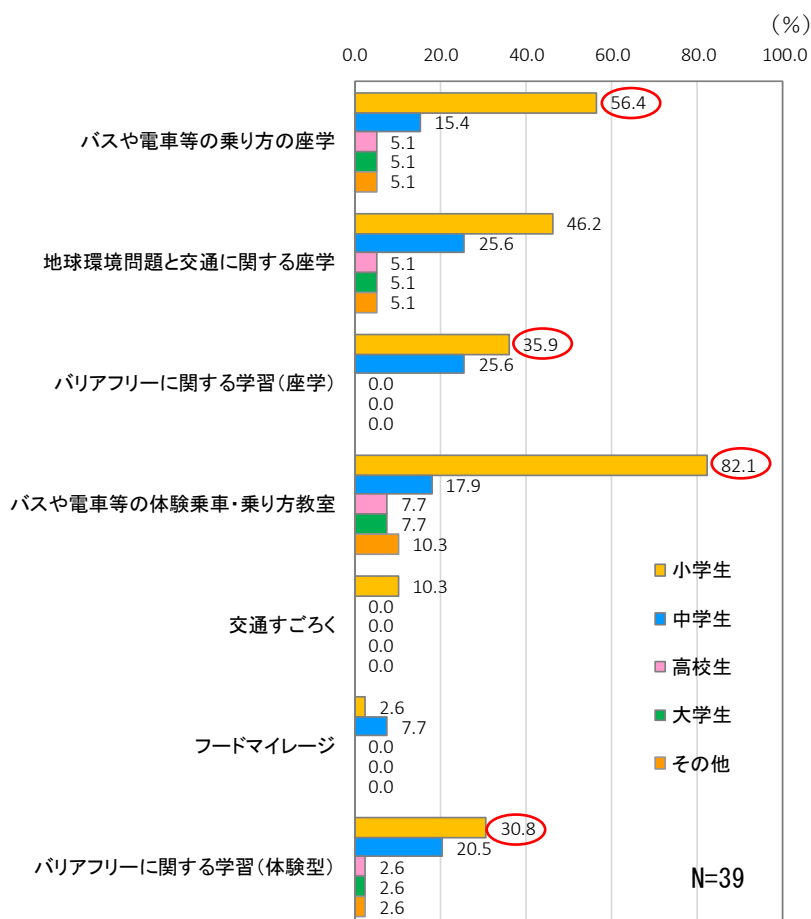
	今回調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)
住んでいるまちの理解が深まる	32	82.1
住んでいるまちへの愛着が生まれる	21	53.8
公共の場でのルールやマナーを身に付けることができる	37	94.9
地球環境への理解が深まる	19	48.7
移動手段について考え、選択することができるようになる	23	59.0
バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる	30	76.9
地域や社会、他の人のことを考えて、自分自身の行動を選ぶことができるようになる	20	51.3
その他	1	2.6
不明・無回答	0	0.0
合計(回答対象者数)	39	100.0

図 「MM教育」に期待する効果（複数回答）

3)実施した「MM教育」の対象者と内容

問3 実施した「MM教育」の対象者と内容は？
 (枠内の該当する部分に○をご記入ください)

- 小学生を対象とした「バスや電車等の体験乗車・乗り方教室」が最も多く 82.1%を占め、「バスや電車等の乗り方の座学」が 56.4%と続く。
- 「バリアフリーに関する学習(座学)」は小学生で 35.9%、「バリアフリーに対する学習(体験型)」は小学生で 30.8%となっている。



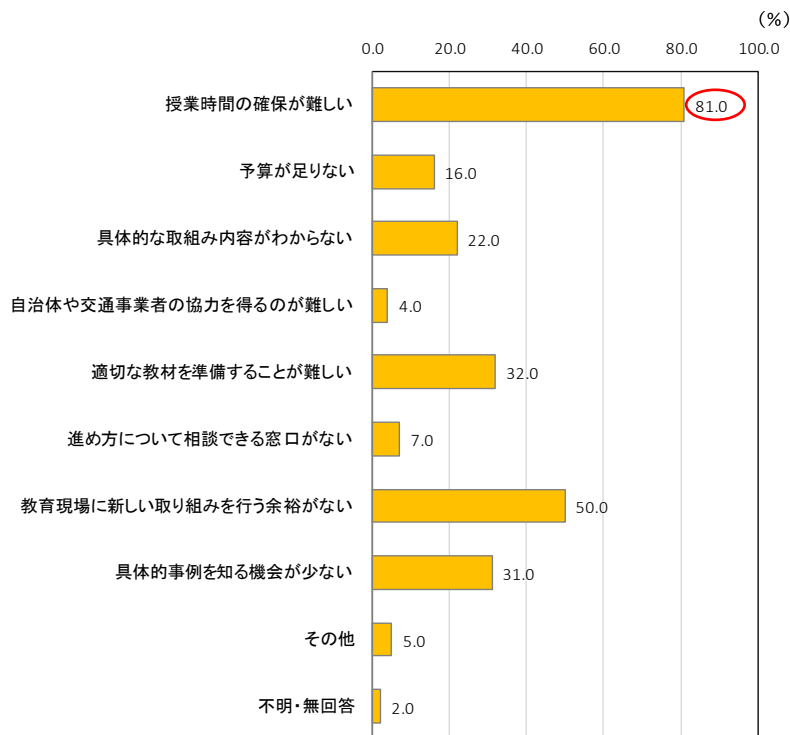
	回答者数(件)						実施団体数	構成比(%)							
	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答		小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	実施団体数	
座学	バスや電車等の乗り方の座学	22	6	2	2	2	18	39	56.4	15.4	5.1	5.1	5.1	46.2	100.0
	地球環境問題と交通に関する座学	18	10	2	2	2	21	39	46.2	25.6	5.1	5.1	5.1	53.8	100.0
	バリアフリーに関する学習(座学)	14	10	0	0	0	25	39	35.9	25.6	0.0	0.0	0.0	64.1	100.0
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室	32	7	3	3	4	8	39	82.1	17.9	7.7	7.7	10.3	20.5	100.0
	交通すごろく	4	0	0	0	0	36	39	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	92.3	100.0
	フードマイレージ	1	3	0	0	0	37	39	2.6	7.7	0.0	0.0	0.0	94.9	100.0
	バリアフリーに関する学習(体験型)	12	8	1	1	1	28	39	30.8	20.5	2.6	2.6	2.6	71.8	100.0
その他	その他1	6	1	1	1	1	33	39	15.4	2.6	2.6	2.6	2.6	84.6	100.0
	その他2	1	1	0	0	0	37	39	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	94.9	100.0

図 「MM教育」の対象者と内容

4) 「MM教育」の課題や障壁

問4 「MM教育」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

○「授業時間の確保が難しい」が81.0%と多数をしめた。次いで「教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない」が50.0%、「適切な教材を準備することが難しい」が32.0%、「具体的な事例を知る機会が少ない」が31.0%となっている。



	今回調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)
授業時間の確保が難しい	81	81.0
予算が足りない	16	16.0
具体的な取り組み内容がわからない	22	22.0
自治体や交通事業者の協力を得るのが難しい	4	4.0
適切な教材を準備することが難しい	32	32.0
進め方について相談できる窓口がない	7	7.0
教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない	50	50.0
具体的な事例を知る機会が少ない	31	31.0
その他	5	5.0
不明・無回答	2	2.0
合計（回答対象者数）	100	100.0

図 「MM教育」に取り組んでいく上での課題や障壁（複数回答）

■「その他」の内容

- ・市として別に取り組む教育課題がある。
- ・公共交通機関の便数が限られ時間に制約がある。
- ・身近に、利用しやすい乗り物がない場合がある
- ・「MM教育という分野が加わった」という多忙感
- ・学校が要望する内容の講師などの依頼先がわからない

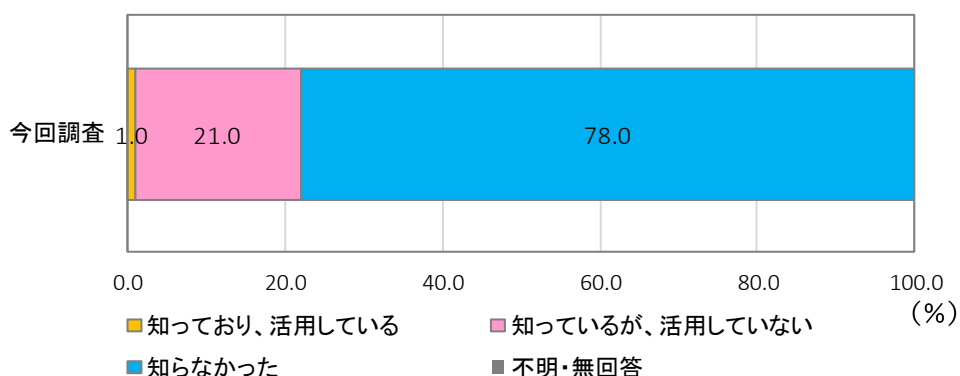
(2) 「MM教育」の教材の活用状況について

1) エコモ財団が提供する教材

① エコモ財団が提供する教材の認知度

問7 エコモ財団 HP において、MM教育の教材や取組事例が入手できることを知っていましたか？（1つに○）

○「知らなかった」が78.0%と最も高く、次いで「知っているが、活用していない」が21.0%、「知っており、活用している」が1.0%となっている。



	回答数 (件)	構成比 (%)
知っており、活用している	1	1.0
知っているが、活用していない	21	21.0
知らなかった	78	78.0
不明・無回答	0	0.0
合計	100	100.0

② エコモ財団が提供する教材の活用状況

（問7で「1」（知っており、活用している）とお答えの方にお伺いします。）

問8 エコモ財団 HP で公開している教材や事例のうち、活用した教材、事例についてご回答ください。

(1) 活用した教材・事例（該当する項目に○をつけてください）

○エコモ財団 HP の教材や事例を活用している1教育員会では、教材として「まちの電車・バスの様子を調べよう。」「バス乗車体験大変を通して公共交通に親しもう。」、事例として「総合的な学習の時間での課題発見・実践学習」を、いずれも特別支援学級で活用しているとの回答を得た。

(2) 教材・事例を活用した先生方の感想をお聞きになっている場合は、その内容をご記入ください。

○エコモ財団の教材を活用している教育委員会のうち、感想についての回答は得られなかった。

③エコモ財団が提供する教材への期待

(問7で「2」(知っているが、活用していない)「3」(知らなかった)とお答えの方にお伺いします。)

問9 エコモ財団 HP で公開している教材や事例のうち、貴自治体のMM教育の取り組みにおいて活用したいものがあればご回答ください。(該当する項目に○をつけてください)

○エコモ財団 HP で教材や取組事例を入手できることを知らなかった教育委員会に活用したい教材や事例を聞いたところ、教材では「環境にやさしいまちづくりをしよう。」が47.5%と最も多く、次いで「地球環境問題の現状と影響を学ぼう。」が43.4%、「環境にやさしい交通手段を選ぼう。」が32.3%となった。事例では、「総合的な学習の時間での課題発見・実践学習」が49.5%、次いで「教科学習と連携した課題発見・実践学習」が34.3%となっている。



		回答数 (件)	構成比 (%)
教材	まちの空気の様子と原因を考えよう。	14	14.1
	環境にやさしいまちづくりをしよう。	47	47.5
	地球環境問題の現状と影響を学ぼう。	43	43.4
	社会効率性への理解を深めよう。	9	9.1
	交通におけるCO2の排出を減らそう。	31	31.3
	普段の暮らしの中で環境対策をしよう。	31	31.3
	まちの電車・バスの様子を調べよう。	24	24.2
	バス乗車体験を通して公共交通に親しもう。	24	24.2
	環境にやさしい交通手段を選ぼう。	32	32.3
	食材の買い物による環境への影響を学ぼう。	14	14.1
事例	総合的な学習の時間での課題発見・実践学習	49	49.5
	教科学習と連携した課題発見+実践学習	34	34.3
	教科学習と連携した実践学習の中で出前講座を活用する実践事例	22	22.2
	地域の特徴を活かした交通	16	16.2
	活用したい教材・事例はない／わからない	14	14.1
	不明・無回答	3	3.0
	合計（回答対象件数）	99	100.0

2)教材に対する意見・要望（自由記述）

問10 MM教育に用いる教材について、「こういったものが欲しい」「こういったものがあれば活用できる」等のご意見・ご要望があればご記入ください。

○教材の形式としては「DVD教材」「外国籍生徒が学べるような多言語での教材」、内容としては「地域の現況を踏まえたまちづくりと公共交通」「実践例」などが挙げられた。

3) 「MM教育」の普及・推進について

問9 交通エコロジー・モビリティ財団が調査した結果、公共交通を教材に用いた「MM教育」に取り組む小学校は、全国で少しずつ増えています。

また、教育委員会と自治体が連携して「MM教育」の教育的効果を考え、授業に活かしている地域もあります。

貴教育委員会としては、「MM教育」を普及・推進することに対してどのように思われますか。

○「MM教育」の効果、重要性など意欲的な意見が23件あった一方、授業時間との兼ね合い、指導要領との関係で取り入れるのは難しい等の課題も21件あった。

※なお、ひとつの意見に複数の分類が重なっているため、回答自治体数の合計と一致しない。

表 MM教育の普及・推進について

分類項目	件数（件）
MM教育の効果、重要性	23
普及・推進していく上での課題	21
取組に関する工夫	12
MM教育に期待すること	8
交通の現状とMM教育の活用	6
その他	4
回答件数	74

3. アンケート調査結果のまとめと今後の課題

(1) アンケート調査結果のまとめ

①都道府県・市を対象としたアンケート

- ・本年度調査において回答を得た 428 自治体における、昨年度のMM教育の実施状況は 40.7%であった。昨年度は実施していないものの、これまでに実施したことがある団体もあわせると、MM教育の実施経験のある団体は 53.3%となり、昨年度調査に比べ 2.1pt の増加であった。
- ・MM教育の効果としては、「公共交通の利用促進・利用者増」を挙げている団体が最も多い結果であった。
- ・昨年度MM教育に取り組んでいない団体における取組まなかった理由としては、「担当部課の人手不足」を挙げた団体が最も多く、次いで「取組方法が分からない」、「教材の作成や準備が大変」といった理由であった。
- ・MM教育に取り組んでいく上での課題や障壁としては、「教材の準備などが大変」、「具体的な取組内容がわからない」等において多くの回答が得られた。
- ・MM教育に取り組まなかった理由、取組む上での課題や障壁の回答結果を踏まえると、MM教育の実施方法や使用する教材に関する情報提供の充実が図られることで、担当部課における負担が軽減され、実施できる団体が増える可能性があることが窺える。
- ・一方、エコモ財団が提供するMM教育に関する教材の認知度は低いことが明らかとなった。提供している教材に関する情報発信を積極的に行っていくことで、上述の課題改善につながることを期待できる。

②教育委員会を対象としたアンケート

- ・本年度調査では、回収率を上げるため、昨年度調査における記述式中心から、選択式中心の調査票に設計変更し、調査を実施した。その結果、昨年度 8.7%であった回収率は 11.6%まで改善されたが、回収率の改善に向けた方策検討に課題が残った。
- ・回答のあった教育委員会（100 件）が所管する小学校でのMM教育の実施状況について、取組実績ありは 39.0%であった。
- ・教育委員会が考えるMM教育の効果としては、「公共の場でのルールやマナーを身に着けることができる」が最も多く、次いで「住んでいるまちの理解が深まる」、「バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる」であった。
- ・MM教育に取り組んでいく上での課題や障壁としては、「授業時間の確保が難しい」が最も多く、次いで「教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない」、「適切な教材を準備することが難しい」が挙げられた。教育委員会からも、人や教材に関する課題が挙げられた。
- ・エコモ財団が提供するMM教育に関する教材の認知度については、教育委員会においても低いことが明らかとなった。また、エコモ財団が提供する教材への期待としては、「環境にやさしいまちづくりをしよう。」、「地球環境問題の現状と影響を学ぼう。」において多くの回答が得られており、交通と地球環境問題をつないで学べる教材に対するニーズが高いことが分かった。

(2) 今後の課題

- ・MM教育に取り組んでいく上での課題として、都道府県・市、教育委員会いずれにおいても、実施方法や教材に関する情報不足が挙げられた。一方、エコモ財団では、MM教育ポータルサイトにおいて、MM教育の教材・事例のほかに、「MM教育の手引き」を公開している。本年度調査において、このような情報提供を行っていることが広く認知されていないことが分かったため、認知度を上げるための方法について検討を行っていく必要がある。
- ・アンケート調査において、先述のようにMM教育の実施方法等に関する情報不足が指摘されたが、ポータルサイトで提供する「MM教育の手引き」には、取り組み方法や実践事例が紹介されている。今年度調査では、教材や事例についての認知度を確認したが、次年度調査では「MM教育の手引き」について認知してもらう意味でも、手引きに対する認知度や手引きの内容についての意見を把握する設問を設定することが必要と考えられる（特に、教育委員会向けアンケートにおいて）。
- ・教育委員会向けアンケートの回収率を上げるための工夫について検討が必要である。本年度調査では、回答しやすくするため選択式中心の調査票に設計変更を行ったが、調査時期の見直しについても検討が必要と思われる。年間行事等を踏まえ、例えば夏休み期間中（お盆前など）に配布・回収するスケジュールを検討することも一案として考えられる。

参考 1. 自治体向け アンケート調査票

①昨年度取組が確認された自治体向け

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、「学校と連携した交通と環境問題に関する授業や児童や生徒等を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」のより一層の普及を目的として、今年度も引き続き、全国の自治体での取組状況や課題等を把握するためのアンケート調査を実施することとなりました。

なお、集計結果は、交通環境学習ポータルサイト (<http://www.mm-education.jp/>) での公表を予定するとともに、ご回答いただいた自治体の方には、本調査の集計結果や交通環境学習関連情報をご提供させていただきます。（昨年度の結果はポータルサイトからダウンロードできます）

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

「交通環境学習」とは？

「バス」や「鉄道」などを教材に用いた学習のこと。

交通環境学習の 授業内容例

- ・バスや鉄道の乗り方教室
- ・公共交通を題材とした地球環境問題の学習
- ・環境学習の一環としてのバス・電車を使った校外学習
- ・公共交通を題材としたまちづくり学習
- ・交通すごろく（すごろくゲームで交通と環境問題や渋滞との関係を学習）
- ・フードマイレージ（買物ゲームで輸送時の環境負荷を学習） など

■記入上のご注意

この調査票は、平成30年度実施アンケートで交通環境学習に取組んだと回答された自治体にお送りしています。

ご回答は、「交通環境学習」に取組まれた場合は、その内容をご存じのご担当者様、取組まれていない場合は、公共交通計画等の関係部署のご担当者様をお願いいたします。

なお、教育委員会にも同様のアンケートを別途配布しています。

交通環境学習ポータル
サイト QRコード

■回収の期日

アンケートは、**10月11日（金）**までに、回答願います。

■調査票の回収方法（A～Cのいずれかの方法で返送ください）

A. インターネット

下記交通環境学習ポータルサイトにアクセス後、回答画面にて入力できます

交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>

B. FAX

記入後の調査票を **FAX 03-5791-1143** まで返信

C. メール

エコモ財団ホームページから調査票をダウンロードいただき、
記入後の調査票を **info@mm-education.jp** まで返信



【問い合わせ先】交通エコロジー・モビリティ財団（担当：岡本）／TEL 03-3221-7636

■調査会社（調査票の配布・回収）

社会システム株式会社（担当：野田）／TEL 03-5791-1133

■ 貴自治体での平成 30 年度の「交通環境学習」の実施状況について

問 1 貴自治体では昨年度（平成 30 年度）に、「交通環境学習」を実施しましたか？（1つに○）
※学校からの依頼で行ったものや交通事業者や運輸局等の取組に協力して実施したものも含まれます。

1. 実施した →副問 1.1へ
2. 過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった →副問 1.2へ

副問 1.1 問 1 で「1」とお答えの方にお伺いします。

「交通環境学習」を継続的に実施できる理由は何ですか？（いくつでも）

1. 効果が期待できる
(具体的に期待している効果は何ですか：)
2. 学校や市町村、交通事業者等が主体となって実施している
3. 学校からの要請がある
4. 自治体の方針や計画に位置づけられている
5. その他（具体的に：)

→副問 1.1 のあとは、問 2 へ

副問 1.2 問 1 で「2」とお答えの方にお伺いします。

昨年度、「交通環境学習」を実施しなかった理由は何ですか？（いくつでも）

1. 取組方法がわからない
2. 担当部課の人手不足
3. 予算が確保できない
4. 効果が分らない
5. 学校の協力が得られない
6. 教材の作成や準備が大変
7. その他（具体的に：)

→副問 1.2 のあとは、4 ページの問 4 へ

問 2 昨年度、貴自治体で取り組まれた「交通環境学習」の実施方法についてお伺いします

(1)それは、学校の授業の一環として実施しましたか？

1. 実施した →副問 2.1へ
2. 実施していない →(2)へ

副問 2.1 (1)で「1」とお答えの方にお伺いします。

授業の実施主体をお答えください。（いくつでも）

1. 貴自治体が学校に依頼して実施
2. 自治体指定の共通カリキュラムを学校で実施
3. 各学校が独自カリキュラムで取組
4. 出前講座として学校からの依頼に対応
5. 国や市町村、交通事業者等が主体となり実施
6. その他（具体的に：)

(2) それは、学校の授業以外ではどのような形（フォーラム、バスまつりなど）で実施しましたか？

具体的に：

副問 2.2 (2) でご回答いただいた方にお伺いします。

(2) でご回答いただいた活動の実施主体をお答えください。(いくつでも)

1. 貴自治体が主体となり実施
2. 国や市町村が主体となり実施
3. 交通事業者が主体となり実施
4. その他（具体的に： _____）

問 3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？（枠内の該当する部分に○をご記入ください）

内 容		対象者				
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他
座学	バスや電車等の乗り方の座学					
	地球環境問題と交通に関する座学					
	バリアフリーに関する学習（座学）					
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室					
	交通すごろく※1					
	フードマイレージ※2					
	バリアフリーに関する学習（体験型）					
その他	（具体的に： _____）					
	（具体的に： _____）					

※1 交通すごろく：すごろくゲームで、交通と環境の関係を学習

※2 フードマイレージ：買物ゲームで輸送時の環境改善を学習

■ 今後の「交通環境学習」について

問4 今後、「交通環境学習」に取り組む予定はありますか？（1つに○）

1. 今年度（平成31年度/令和元年度）に取り組む
2. 予定はないが、機会があれば取り組む
3. 取り組まないと思う
4. 今後はわからない

問5 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

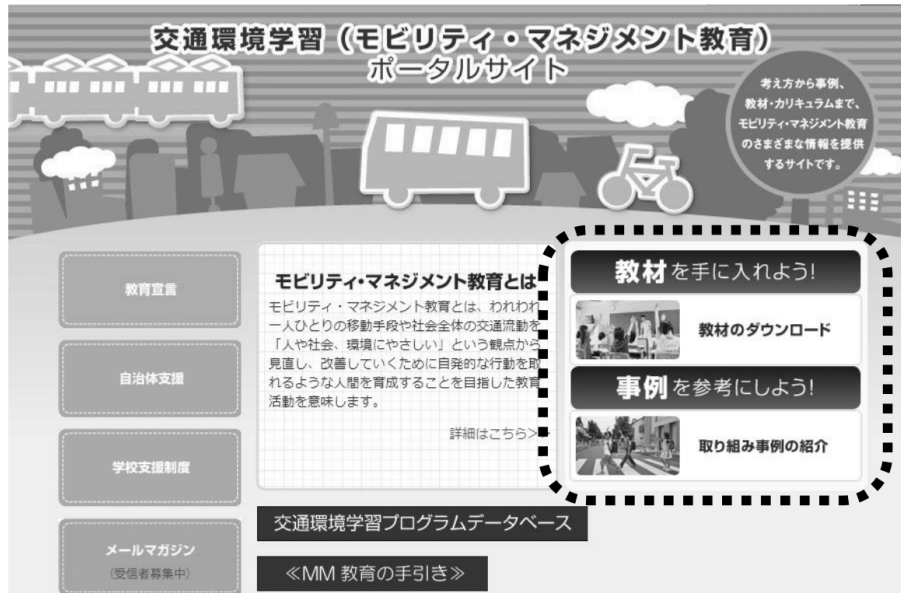
1. 教育委員会の理解が得られない
2. 具体的な取組内容がわからない
3. 学校の協力が得られない（アプローチの仕方がわからない）
4. 交通事業者の協力を得られない
5. 期待した効果が得られない
6. 教材の準備などが大変
7. 進め方について相談できる窓口がない
8. 具体的事例を知る機会が少ない
9. その他（具体的に： _____)

問6 今後、貴自治体において「交通環境学習」に取り組む場合に、予想される問題点や、支援して欲しい事柄などについて、具体的に教えてください。

具体的に：

■ 教材の活用状況について

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団のホームページ（以下、エコモ財団 HP）において、交通環境学習の教材や取組事例を入手することができます。



エコモ財団が公開している教材・事例は、下記 HP からご覧いただけます
交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>
(QR コードからアクセスできます)



問 7 エコモ財団 HP において、交通環境学習の教材や取組事例が入手できることを知っていましたか？
(1つに○)

1. 知っており、活用している → 6 ページの 問 8 へ
2. 知っているが、活用していない → 7 ページの 問 9 へ
3. 知らなかった → 7 ページの 問 9 へ

問 8 問7で「1」とお答えの方にお伺いします。

エコモ財団 HP で公開している教材や事例のうち、活用した教材、事例についてご回答ください。

(1) 活用した教材・事例（該当する項目に○をつけてください）

教材	活用した	活用した学年 (ご記入ください)
1. まちの空気の様子と原因を考えよう。		
2. 環境にやさしいまちづくりをしよう。		
3. 地球環境問題の現状と影響を学ぼう。		
4. 社会効率性への理解を深めよう。		
5. 交通における CO2 の排出を減らそう。		
6. 普段の暮らしの中で環境対策をしよう。		
7. まちの電車・バスの様子を調べよう。		
8. バス乗車体験を通して公共交通に親しもう。		
9. 環境にやさしい交通手段を選ぼう。		
10. 食材の買い物による環境への影響を学ぼう。		

事例	活用した	活用した学年 (ご記入ください)
11. 総合的な学習の時間での課題発見・実践学習		
12. 教科学習と連携した課題発見+実践学習		
13. 教科学習と連携した実践学習の中で出前講座を活用する実践事例		
14. 地域の特徴を活かした交通		

(2) 教材・事例を活用した先生方の感想をお聞きになっている場合は、その内容をご記入ください。

具体的に：

→7ページの問 10 へ

問9 問7で「2」「3」とお答えの方にお伺いします。

エコモ財団 HP で公開している教材や事例のうち、貴自治体の交通環境学習の取り組みにおいて活用したいものがあればご回答ください。(該当する項目に○をつけてください)

教材	回答
1. まちの空気の様子と原因を考えよう。	
2. 環境にやさしいまちづくりをしよう。	
3. 地球環境問題の現状と影響を学ぼう。	
4. 社会効率性への理解を深めよう。	
5. 交通における CO2 の排出を減らそう。	
6. 普段の暮らしの中で環境対策をしよう。	
7. まちの電車・バスの様子を調べよう。	
8. バス乗車体験を通して公共交通に親しもう。	
9. 環境にやさしい交通手段を選ぼう。	
10. 食材の買い物による環境への影響を学ぼう。	

事例	回答
11. 総合的な学習の時間での課題発見・実践学習	
12. 教科学習と連携した課題発見+実践学習	
13. 教科学習と連携した実践学習の中で出前講座を活用する実践事例	
14. 地域の特徴を活かした交通	

	回答
15. 活用したい教材・事例はない/わからない	

問10 交通環境学習に用いる教材について、「こういったものが欲しい」「こういったものがあれば活用できる」等のご意見・ご要望があればご記入ください。

具体的に：

→質問は以上です。
最後にご回答者様についてご記入ください。

■ 貴自治体やご回答者について

- 本アンケートのご回答者 ※不明点などについて、お問い合わせさせていただく場合があります。

自治体名		担当部署			
氏 名		役 職			
TEL		FAX		e-mail	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
アンケートは、10月11日（金）までに、
インターネット、メール、FAXのいずれかで返送願います。

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、「学校と連携した交通と環境問題に関する授業や児童や生徒等を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」のより一層の普及を目的として、今年度も引き続き、全国の自治体での取組状況や課題等を把握するためのアンケート調査を実施することとなりました。

なお、集計結果は、交通環境学習ポータルサイト (<http://www.mm-education.jp/>) での公表を予定するとともに、ご回答いただいた自治体の方には、本調査の集計結果や交通環境学習関連情報をご提供させていただきます。（昨年度の結果はポータルサイトからダウンロードできます）

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

「交通環境学習」とは？

「バス」や「鉄道」などを教材に用いた学習のこと。

交通環境学習の
授業内容例

- ・バスや鉄道の乗り方教室
- ・公共交通を題材とした地球環境問題の学習
- ・環境学習の一環としてのバス・電車を使った校外学習
- ・公共交通を題材としたまちづくり学習
- ・交通すごろく（すごろくゲームで交通と環境問題や渋滞との関係を学習）
- ・フードマイレージ（買物ゲームで輸送時の環境負荷を学習） など

■記入上のご注意

この調査票は、平成30年度実施アンケートで交通環境学習の取組が確認されていない自治体にお送りしています。

ご回答は、「交通環境学習」に取組まれた場合は、その内容をご存じのご担当者様、取組まれていない場合は、公共交通計画等の関係部署のご担当者様をお願いいたします。

なお、教育委員会にも同様のアンケートを別途配布しています。

交通環境学習ポータル
サイト QRコード

■回収の期日

アンケートは、**10月11日（金）**までに、回答願います。

■調査票の回収方法（A～Cのいずれかの方法で返送ください）

A. インターネット

下記交通環境学習ポータルサイトにアクセス後、回答画面にて入力できます

交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>

B. FAX

記入後の調査票を **FAX 03-5791-1143** まで返信

C. メール

エコモ財団ホームページから調査票をダウンロードいただき、
記入後の調査票を **info@mm-education.jp** まで返信



【問い合わせ先】交通エコロジー・モビリティ財団（担当：岡本）／TEL 03-3221-7636

■調査会社（調査票の配布・回収）

社会システム株式会社（担当：野田）／TEL 03-5791-1133

■ 貴自治体での平成30年度の「交通環境学習」の実施状況について

問1 貴自治体では昨年度（平成30年度）に、「交通環境学習」を実施しましたか？（1つに○）

※学校からの依頼で行ったものや交通事業者や運輸局等の取組に協力して実施したものも含まれます。

1. 実施した →問2へ
2. 過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった →副問1.1へ
3. これまで実施したことがない →副問1.1へ

副問1.1 問1で「2」、「3」とお答えの方にお伺いします。

(1) 「交通環境学習」に取組む意向はありましたか？（1つに○）

1. 取組に向けて検討したが断念した
2. 関心はあったが検討しなかった
3. 関心もない

(2) その主な理由は何ですか？（いくつでも）

1. 取組方法がわからない
2. 担当部課の人手不足
3. 予算が確保できない
4. 効果がわからない
5. 学校の協力が得られない
6. 教材の作成や準備が大変
7. その他（具体的に： _____）

→副問1.1のあとは、4ページの問4へ

問2 昨年度、貴自治体で取り組まれた「交通環境学習」の実施方法についてお伺いします

(1) それは、学校の授業の一環として実施しましたか？

1. 実施した →副問2.1へ
2. 実施していない →(2)へ

副問2.1 (1)で「1」とお答えの方にお伺いします。

授業の実施主体をお答えください。（いくつでも）

1. 貴自治体が学校に依頼して実施
2. 自治体指定の共通カリキュラムを学校で実施
3. 各学校が独自カリキュラムで取組
4. 出前講座として学校からの依頼に対応
5. 国や市町村、交通事業者等が主体となり実施
6. その他（具体的に： _____）

(2) それは、学校の授業以外ではどのような形（フォーラム、バスまつりなど）で実施しましたか？

具体的に：

副問 2.2 (2) でご回答いただいた方にお伺いします。

(2) でご回答いただいた活動の実施主体をお答えください。(いくつでも)

1. 貴自治体が主体となり実施
2. 国や市町村が主体となり実施
3. 交通事業者が主体となり実施
4. その他（具体的に： _____ ）

問 3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？（枠内の該当する部分に○をご記入ください）

内 容		対象者				
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他
座学	バスや電車等の乗り方の座学					
	地球環境問題と交通に関する座学					
	バリアフリーに関する学習（座学）					
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室					
	交通すごろく※1					
	フードマイレージ※2					
	バリアフリーに関する学習（体験型）					
その他	（具体的に： _____ ）					
	（具体的に： _____ ）					

※1 交通すごろく：すごろくゲームで、交通と環境の関係を学習

※2 フードマイレージ：買物ゲームで輸送時の環境改善を学習

■ 今後の「交通環境学習」について

問4 今後、「交通環境学習」に取り組む予定はありますか？（1つに○）

1. 今年度（平成31年度/令和元年度）に取り組む
2. 予定はないが、機会があれば取り組む
3. 取り組まないと思う
4. 今後はわからない

問5 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

1. 教育委員会の理解が得られない
2. 具体的な取組内容がわからない
3. 学校の協力が得られない（アプローチの仕方がわからない）
4. 交通事業者の協力を得られない
5. 期待した効果が得られない
6. 教材の準備などが大変
7. 進め方について相談できる窓口がない
8. 具体的事例を知る機会が少ない
9. その他（具体的に： _____)

問6 仮に、今後、貴自治体において「交通環境学習」に取り組む場合に、予想される問題点や、支援して欲しい事柄などについて、具体的に教えてください。

具体的に：

■ 教材の活用状況について

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団のホームページ（以下、エコモ財団 HP）において、交通環境学習の教材や取組事例を入手することができます。

交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）ポータルサイト

考案から事例、教材・カリキュラムまで、モビリティ・マネジメント教育のさまざまな情報を提供するサイトです。

教育宣言

自治体支援

学校支援制度

メールマガジン
(受信者募集中)

モビリティ・マネジメント教育とは
モビリティ・マネジメント教育とは、われわれ一人ひとりの移動手段や社会全体の交通流動を「人や社会、環境にやさしい」という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育成することを旨とした教育活動を意味します。
詳細はこちら>

教材を手に入れよう!

教材のダウンロード

事例を参考にしよう!

取り組み事例の紹介

交通環境学習プログラムデータベース

<MM 教育の手引き>

エコモ財団が公開している教材・事例は、下記 HP からご覧いただけます
交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>
(QR コードからアクセスできます)



問 7 エコモ財団 HP において、交通環境学習の教材や取組事例が入手できることを知っていましたか？
(1 つに〇)

1. 知っており、活用している → 6 ページの問 8 へ
2. 知っているが、活用していない → 7 ページの問 9 へ
3. 知らなかった → 7 ページの問 9 へ

問8 問7で「1」とお答えの方にお伺いします。

エコモ財団 HP で公開している教材や事例を活用した学校がについて、活用した教材、事例についてご回答ください。

(1) 活用した教材・事例（該当する項目に○をつけてください）

教材	活用した	活用した学年 (ご記入ください)
1. まちの空気の様子と原因を考えよう。		
2. 環境にやさしいまちづくりをしよう。		
3. 地球環境問題の現状と影響を学ぼう。		
4. 社会効率性への理解を深めよう。		
5. 交通における CO2 の排出を減らそう。		
6. 普段の暮らしの中で環境対策をしよう。		
7. まちの電車・バスの様子を調べよう。		
8. バス乗車体験を通して公共交通に親しもう。		
9. 環境にやさしい交通手段を選ぼう。		
10. 食材の買い物による環境への影響を学ぼう。		

事例	活用した	活用した学年 (ご記入ください)
11. 総合的な学習の時間での課題発見・実践学習		
12. 教科学習と連携した課題発見+実践学習		
13. 教科学習と連携した実践学習の中で出前講座を活用する実践事例		
14. 地域の特徴を活かした交通		

(2) 教材・事例を活用した先生方の感想をお聞きになっている場合は、その内容をご記入ください。

具体的に：

→7ページの問10へ

問9 問7で「2」「3」とお答えの方にお伺いします。

エコモ財団 HP で公開している以下の教材や事例のうち、貴自治体の交通環境学習の取り組みにおいて活用したいものがあればご回答ください。(該当する項目に○をつけてください)

教材	回答
1. まちの空気の様子と原因を考えよう。	
2. 環境にやさしいまちづくりをしよう。	
3. 地球環境問題の現状と影響を学ぼう。	
4. 社会効率性への理解を深めよう。	
5. 交通における CO2 の排出を減らそう。	
6. 普段の暮らしの中で環境対策をしよう。	
7. まちの電車・バスの様子を調べよう。	
8. バス乗車体験を通して公共交通に親しもう。	
9. 環境にやさしい交通手段を選ぼう。	
10. 食材の買い物による環境への影響を学ぼう。	

事例	回答
11. 総合的な学習の時間での課題発見・実践学習	
12. 教科学習と連携した課題発見+実践学習	
13. 教科学習と連携した実践学習の中で出前講座を活用する実践事例	
14. 地域の特徴を活かした交通	

事例	回答
15. 活用したい教材・事例はない/わからない	

問10 交通環境学習に用いる教材について、「こういったものが欲しい」「こういったものがあれば活用できる」等のご意見・ご要望があればご記入ください。

具体的に：

→質問は以上です。
最後にご回答者様についてご記入ください。

■ 貴自治体やご回答者について

- 本アンケートのご回答者 ※不明点などについて、お問い合わせさせていただく場合があります。

自治体名		担当部署			
氏 名		役 職			
TEL		FAX		e-mail	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
アンケートは、10月11日（金）までに、
インターネット、メール、FAXのいずれかで返送願います。

参考 2. 教育委員会向け アンケート調査票

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、「学校と連携した交通と環境問題に関する授業や児童や生徒等を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」のより一層の普及を目的として、今年度も引き続き、全国の教育委員会での取組状況や課題等を把握するためのアンケート調査を実施することとなりました。

なお、集計結果は、交通環境学習ポータルサイト (<http://www.mm-education.jp/>) での公表を予定しています。（昨年度の結果はポータルサイトからダウンロードできます）

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

アンケートにご回答いただく前に、最終ページ（8ページ）の「交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）とは」をご覧ください。

■記入上のご注意

ご回答は、「交通環境学習」に取組まれた場合は、その内容をご存じのご担当者様、取組まれていない場合は、学校教育等の関係部署のご担当者様をお願いいたします。

なお、各自治体の公共交通関係部署にも同様のアンケートを別途実施しています。 交通環境学習ポータルサイト QRコード

■回収の期日

アンケートは、**12月20日（金）**までに、回答願います。

■調査票の回収方法（A～Cのいずれかの方法で返送ください）

A. インターネット

下記交通環境学習ポータルサイトにアクセス後、回答画面にて入力できます

交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>

B. FAX

記入後の調査票を **FAX 03-5791-1143** まで返信

C. メール

エコモ財団ホームページから調査票をダウンロードいただき、
記入後の調査票を **info@mm-education.jp** まで返信



【問い合わせ先】交通エコロジー・モビリティ財団（担当：岡本）／TEL 03-3221-7636

■調査会社（調査票の配布・回収）

社会システム株式会社（担当：野田）／TEL 03-5791-1133

■ 「交通環境学習」の取組み状況

問1 貴教育委員会が所管する小学校では、「交通環境学習」に取り組んでいますか？
(近いもの1つに○)

1. 全小学校で、交通環境学習を取り入れた授業を行っている
2. 一部の小学校で、授業にとり入れている
3. 今は取り組んでいないが、今後、授業にとり入れることは可能 →問4へ
4. 授業にとり入れることは難しい →問4へ

問2 「交通環境学習」には、どのような効果があるとお考えですか (いくつでも)

1. 住んでいるまちの理解が深まる
2. 住んでいるまちへの愛着が生まれる
3. 公共の場でのルールやマナーを身につけることができる
4. 地球環境への理解が深まる
5. 移動手段について考え、選択ができるようになる
6. バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる
7. 地域や社会、他の人のことを考えて、自分自身の行動を選ぶことができるようになる
8. その他 (具体的に：)

問3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？ (枠内の該当する部分に○をご記入ください)

内 容		対象者				
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他
座学	バスや電車等の乗り方の座学					
	地球環境問題と交通に関する座学					
	バリアフリーに関する学習 (座学)					
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室					
	交通すごろく※1					
	フードマイレージ※2					
	バリアフリーに関する学習 (体験型)					
その他	(具体的に：)					
	(具体的に：)					

※1 交通すごろく：すごろくゲームで、交通と環境の関係を学習

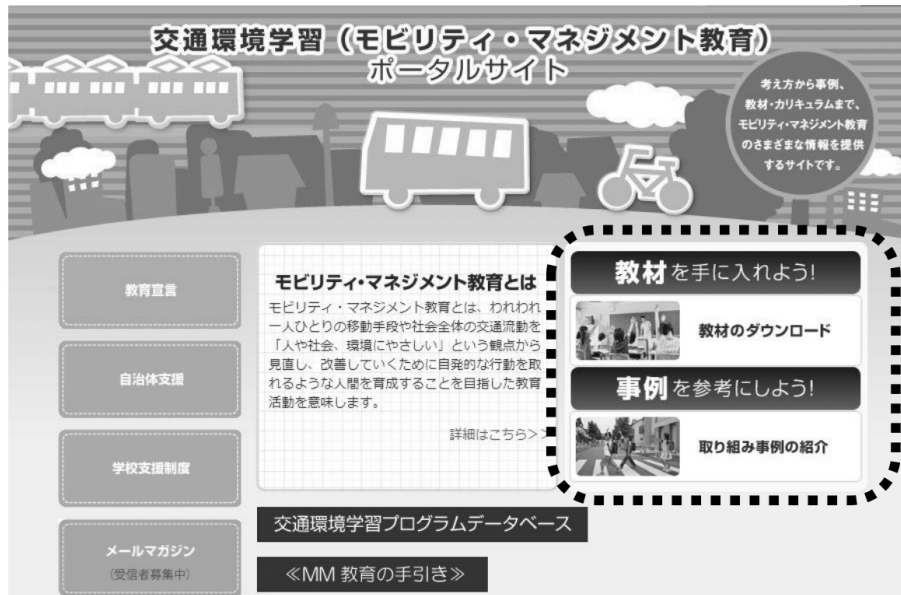
※2 フードマイレージ：買物ゲームで輸送時の環境改善を学習

問 4 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

1. 授業時間の確保が難しい
2. 予算が足りない
3. 具体的な取組内容がわからない
4. 自治体や交通事業者の協力を得るのが難しい
5. 適切な教材を準備することが難しい
6. 進め方について相談できる窓口がない
7. 教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない
8. 具体的事例を知る機会が少ない
9. その他（具体的に： _____)

■ 教材の活用状況について

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団のホームページ（以下、エコモ財団 HP）において、交通環境学習の教材や取組事例を入手することができます。



エコモ財団が公開している教材・事例は、下記 HP からご覧いただけます
交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>
(QR コードからアクセスできます)



問 5 エコモ財団 HP において、交通環境学習の教材や取組事例が入手できることを知っていましたか？
(1つに○)

1. 知っており、活用している → 5 ページの 問 6 へ
2. 知っているが、活用していない → 6 ページの 問 7 へ
3. 知らなかった → 6 ページの 問 7 へ

問6 エコモ財団 HP で公開している教材や事例を活用した学校がある場合、活用した教材、事例についてご回答ください。

(1) 活用した教材・事例（該当する項目に○をつけてください）

教材	活用した	活用した学年 (ご記入ください)
1. まちの空気の様子と原因を考えよう。		
2. 環境にやさしいまちづくりをしよう。		
3. 地球環境問題の現状と影響を学ぼう。		
4. 社会効率性への理解を深めよう。		
5. 交通における CO2 の排出を減らそう。		
6. 普段の暮らしの中で環境対策をしよう。		
7. まちの電車・バスの様子を調べよう。		
8. バス乗車体験を通して公共交通に親しもう。		
9. 環境にやさしい交通手段を選ぼう。		
10. 食材の買い物による環境への影響を学ぼう。		

事例	活用した	活用した学年 (ご記入ください)
11. 総合的な学習の時間での課題発見・実践学習		
12. 教科学習と連携した課題発見+実践学習		
13. 教科学習と連携した実践学習の中で出前講座を活用する実践事例		
14. 地域の特徴を活かした交通		

(2) 教材・事例を活用した先生方の感想をお聞きになっている場合は、その内容をご記入ください。

具体的に：

→6ページの問8へ

問7 エコモ財団 HP で公開している以下の教材や事例のうち、貴教育委員会の交通環境学習の取り組みにおいて活用が期待されるものがあればご回答ください。(該当する項目に○をつけてください)

教材	回答
1. まちの空気の様子と原因を考えよう。	
2. 環境にやさしいまちづくりをしよう。	
3. 地球環境問題の現状と影響を学ぼう。	
4. 社会効率性への理解を深めよう。	
5. 交通における CO2 の排出を減らそう。	
6. 普段の暮らしの中で環境対策をしよう。	
7. まちの電車・バスの様子を調べよう。	
8. バス乗車体験を通して公共交通に親しもう。	
9. 環境にやさしい交通手段を選ぼう。	
10. 食材の買い物による環境への影響を学ぼう。	

事例	回答
11. 総合的な学習の時間での課題発見・実践学習	
12. 教科学習と連携した課題発見+実践学習	
13. 教科学習と連携した実践学習の中で出前講座を活用する実践事例	
14. 地域の特徴を活かした交通	

	回答
15. 活用したい教材・事例はない/わからない	

問8 交通環境学習に用いる教材について、「こういったものが欲しい」「こういったものがあれば活用できる」等のご意見・ご要望があればご記入ください。

具体的に：

問9 交通エコロジー・モビリティ財団が調査した結果、公共交通を教材に用いた「交通環境学習」に取り組む小学校は、全国で少しずつ増えています。
また、教育委員会と自治体が連携して「交通環境学習」の教育的効果を考え、授業に活かしている地域もあります。

貴教育委員会としては、「交通環境学習」を普及・推進することに対して、どのように思われますか。

具体的に：

● 本アンケートのご回答者をご記入ください

※不明点などについて、お問い合わせさせていただく場合があります。

教育委員会名					
回答者の氏名			所属部署・役職		
TEL		FAX		e-mail	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
アンケートは、**12月20日(金)**までに、
インターネット、メール、FAXのいずれかで返送願います。

● 交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）とは ●

- 「交通環境学習」は、私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通流動を、
- 「人や社会、環境にやさしい」という観点から見直し、改善していくために自発的な行動をとれるような人間を育てる(力を育む)ことを目指した教育活動です。
- 全国の小学校で、生活科、社会科、理科、家庭科、総合的な学習の時間などにおいて、
- バスや鉄道を教材に用いた「交通環境学習」が行われています。
- エコモ財団では、小学校、行政、交通事業者と連携を図りながら、「交通環境学習」の
- 手引きづくりや授業実践の支援、教材等の情報提供などを行っています。

実践事例

● 地域の電車・バスなど(公共交通)を考える学習

バス車両の見学や体験乗車・座学を通じて、地域の生活を支えるバスの役割を学ぶとともに、高齢者や高校生などの移動を支える公共交通を守るための自分たちの行動について考え、バスに乗る時に他の人への気配りの意識を持ち、公共の場でのルールやマナーを身につける。



<長野市立綿内小学校>

● まちづくりと交通を考える学習

市内の交通の様子を調べることで、市の中心部には公共交通が多く、周辺部にはバスしか走っていないこと、公共交通は土地利用や人のくらしとつながっていることに気づく。



<北海道教育大学附属札幌小学校>

● クルマ社会の問題を考える学習

過度なクルマの利用が地球環境問題や道路渋滞を引き起こしていることに気づき、自分たちの普段の行動や生活が社会問題につながっていることを考える。



<草加市立川柳小学校>

その他にも、まち・環境・公共（政治や公民的資質、シティズンシップなど）と交通に関わる様々な学習なども取り組まれています。

モビリティ・マネジメント教育ポータルサイト

授業で使える「教材（学習資料を含む）」や「実践事例」を提供しています。ぜひ、一度訪問して下さい。

<http://www.mm-education.jp/index.html>

MM教育

検索

